

2026年度 大学院キャリアデザイン学研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X8001】	キャリア調査研究法基礎〔菊地 史倫〕	春学期前半/Spring(1st half)	1
【X8002】	量的調査法〔坂田 哲人〕	春学期後半/Spring(2nd half)	2
【X8003】	質的調査法〔佐藤 恵〕	秋学期前半/Fall(1st half)	3
【X8004】	生涯発達心理学〔岡田 昌毅〕	春学期集中/Intensive(Spring)	4
【X8005】	教育心理学〔田澤 実、輕部 雄輝〕	秋学期授業/Fall	5
【X8006】	産業・組織心理学〔坂爪 洋美、谷口 ちさ〕	春学期授業/Spring	6
【X8007】	キャリアカウンセリング論〔廣川 進、高橋 浩〕	春学期授業/Spring	8
【X8008】	コミュニティとキャリア〔田中 研之輔、安田 節之〕	秋学期授業/Fall	10
【X8009】	キャリアガイダンス論〔藤田 晃之〕	春学期後半/Spring(2nd half)	12
【X8010】	教育経営論〔仲田 康一、村上 純一〕	春学期授業/Spring	13
【X8011】	キャリア教育論〔上西 充子、児美川 孝一郎〕	春学期授業/Spring	14
【X8012】	教育社会学〔筒井 美紀〕	春学期授業/Spring	16
【X8013】	生涯学習論〔久井 英輔、山梨 あや〕	秋学期授業/Fall	18
【X8014】	キャリア開発論〔浅野 浩美〕	春学期授業/Spring	20
【X8015】	人的資源管理論〔佐藤 厚〕	秋学期授業/Fall	22
【X8016】	経営組織マネジメント論〔古田 克利〕	春学期授業/Spring	24
【X8017】	キャリアと雇用の経済学〔梅崎 修〕	秋学期授業/Fall	25
【X8018】	職業キャリア政策論〔中村 天江〕	秋学期授業/Fall	26
【X8021】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔上西 充子〕	春学期授業/Spring	28
【X8023】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔古田 克利〕	春学期授業/Spring	29
【X8024】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔児美川 孝一郎〕	春学期授業/Spring	30
【X8025】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔齋藤 嘉孝〕	春学期授業/Spring	31
【X8026】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔坂爪 洋美〕	春学期授業/Spring	32
【X8027】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔久井 英輔〕	春学期授業/Spring	33
【X8028】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔佐藤 厚〕	春学期授業/Spring	35
【X8029】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔佐藤 恵〕	春学期授業/Spring	37
【X8030】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔仲田 康一〕	春学期授業/Spring	38
【X8031】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔武石 恵美子〕	春学期授業/Spring	39
【X8032】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔田澤 実〕	春学期授業/Spring	40
【X8033】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔田中 研之輔〕	春学期授業/Spring	41
【X8034】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔筒井 美紀〕	春学期授業/Spring	42
【X8035】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔松浦 民恵〕	春学期授業/Spring	43
【X8036】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔廣川 進〕	春学期授業/Spring	44
【X8037】	キャリアデザイン学演習Ⅰ〔安田 節之〕	春学期授業/Spring	45
【X8041】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔上西 充子〕	秋学期授業/Fall	46
【X8043】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔古田 克利〕	秋学期授業/Fall	47
【X8044】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔児美川 孝一郎〕	秋学期授業/Fall	48
【X8045】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔齋藤 嘉孝〕	秋学期授業/Fall	49
【X8046】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔坂爪 洋美〕	秋学期授業/Fall	50
【X8047】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔久井 英輔〕	秋学期授業/Fall	51
【X8048】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔佐藤 厚〕	秋学期授業/Fall	53
【X8049】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔佐藤 恵〕	秋学期授業/Fall	54
【X8050】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔仲田 康一〕	秋学期授業/Fall	55
【X8051】	キャリアデザイン学演習Ⅱ〔武石 恵美子〕	秋学期授業/Fall	56

【X8052】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔田澤 実〕	秋学期授業/Fall	57
【X8053】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔田中 研之輔〕	秋学期授業/Fall	58
【X8054】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔筒井 美紀〕	秋学期授業/Fall	59
【X8055】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔松浦 民恵〕	秋学期授業/Fall	60
【X8056】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔廣川 進〕	秋学期授業/Fall	61
【X8057】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔安田 節之〕	秋学期授業/Fall	62
【X8059】	キャリアデザイン学演習Ⅰ	(代表シラバス)〔キャリアデザイン学専攻教員〕	春学期授業/Spring	63
【X8060】	キャリアデザイン学演習Ⅱ	(代表シラバス)〔キャリアデザイン学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	64
【X8100】	修士論文年間授業/Yearly			65

SOC500M1 - 1101 (社会学 / Sociology 500)

キャリア調査研究法基礎

菊地 史倫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査研究に関わる基本的な方法に関する知識を身につけることによって、社会現象を主観的に解釈するのではなく、客観的なデータに基づき社会現象を考察し、そこに内在する問題を理解するスキルを修得することを本講義の目的としています。具体的には心理学分野の研究をベースとして、量的、質的研究とはなにか、科学的研究法がなぜ必要かについての理解を目指します。

【到達目標】

講義では、量的・質的な調査や分析のさまざまな方法について基本的学習を行い、それらを理解して自ら説明することができるようになることを目指します。本講義での学びを通し、各自が関心を持つ研究対象について、具体的な研究を実施するにはどうしたらよいか、量的・質的調査の方法を適用し、量的・質的な分析を計画できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に2コマ連続で、7週開講となります。基本的には対面授業を予定していますが、講義の内容によってはZoomを利用したオンライン授業を併用する予定です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の到達目標やテーマ、概略と実施方法の説明
第2回	講義の実施方法および卒業研究等の紹介	講義運営方法についての説明と、自身が取り組んだ卒業研究等の概要を作成し紹介
第3回	科学と実証	心理学分野における科学的研究に関する解説
第4回	実験法	実験法の特徴について解説
第5回	調査法	調査法の特徴について解説
第6回	観察法・面接法	観察法及び面接法（非構造化、半構造化、構造化面接）の特徴について解説
第7回	心理学分野研究論文の講読法Ⅰ	実験法に関する研究論文の構成（背景、方法、結果、考察）、特徴や読み解き方について解説
第8回	心理学分野研究論文の講読法Ⅱ	調査法に関する研究論文の構成（背景、方法、結果、考察）、特徴や読み解き方について解説
第9回	研究論文の検索法	研究論文の利用法や検索方法について解説
第10回	研究活動における問題発見と主題設定、検証方法	研究テーマに関する問題発見の仕方と主題設定、仮説による科学的検証について解説
第11回	研究計画Ⅰ 作成	具体的な研究計画を作成し、問題点を把握
第12回	研究計画Ⅱ 修正	研究計画の修正方法を解説
第13回	研究計画Ⅲ 発表	研究計画を発表
第14回	研究計画Ⅳ 議論	研究計画に関する議論の解説と訓練

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

三浦麻子（2017）. 心理学ベーシック第1巻 なるほど！ 心理学研究法. 北大路書房.
 その他は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、提出課題（40％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットやスマートフォンでもかまいませんが、Word、Excel、Power pointを利用できるようにしておいてください。第9回以降は毎回使用する予定です。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが、学部生のときに量的または質的研究に関する講義（研究法、論文講読、統計等）を受講しているか、卒業研究や卒業論文に取り組んだ経験のあることが望ましいです。
- ・生成AIについては講義内で説明するガイドラインに基づいて使用可能です。
- ・講義は4/11～5/30までの開講日に2コマ×7週連続で実施予定です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、認知心理学、人間工学

<研究テーマ>

鉄道従事員の情報提供や、車掌の安全確認に関する心理学・人間工学的研究を実施しています。心理学・人間工学的知見を社会実装につなげるための研究に取り組んでいます。

<主要研究業績>

研究業績については下記のページを参照してください。https://researchmap.jp/fkikuchi

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic methodology and knowledge for conducting surveys and experimental research.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to enable students to understand how to conduct specific research, apply quantitative and qualitative methods, and design appropriate analytical plans.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to spend two hours each for preparation and review for every class session.

(Grading Criteria /Policy)

Your final grade will be calculated based on the following.

Final Report: 40%, In-class Contribution: 60%

SOC500M1 - 1102 (社会学 / Sociology 500)

量的調査法

坂田 哲人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動並びに論文執筆等に求められる量的研究、量的調査の技法を学ぶ。論文執筆に際して量的研究を実施しない方であっても、先行研究等を参照する際に、量的研究によって実施された論文や調査を解説するためにも、本授業の内容の活用が期待される

【到達目標】

量的調査の特徴や調査の具体的な実施方法について理解していること、並びに量的調査によって得られたローデータを分析するための統計的な専門的な知識や技能を習得し、実際のデータを用いて、統計処理の技法を体得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

量的調査は、様々な研究を進めるうえで非常に有効な方法である。この授業では、実際に統計ソフト（エクセルを予定）を履修者が操作すること等により、量的調査分析の手法を修得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や到達目標について
2	量的研究の特徴	量的研究（標本調査）が持つ強み、質的研究との比較
3	量的調査と量的データの特徴①	調査紙と尺度の開発
4	量的調査と量的データの特徴②	量的データの特徴（平均・標準偏差）
5	統計分析①ー基礎統計①	一変数の集計
6	統計分析②ー基礎統計②	二変数の集計
7	統計分析③	推測統計（推計）の考え方
8	統計分析④	推測統計（推計）の実際
9	統計分析⑤	相関分析・回帰分析・重回帰分析
10	統計分析⑥	統計的検定
11	統計分析⑦	因子分析
12	統計分析⑧	クラスター分析
13	統計分析⑨	数量化、質的データからの変換
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期科目「キャリア調査研究法基礎」と合わせて履修すること
- ・毎回指示される課題を遂行すること（文献講読、データ分析、レポート作成、等）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出物50％、期末レポート50％

【学生の意見等からの気づき】

常に実践的な内容を心がけている。理論的なことだけでなく、修士論文に実際に使える知識・技能を会得してほしいと考えている。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育経営学・組織人材開発・比較教育

<本授業と関連する主な業績>

- ・就学前施設における心理的安全性と組織の成長に関する研究ー保育の質の向上を支える組織要因の分析ー 乳幼児教育・保育者養成研究
- ・保育者の成長・動機付け要因に着目した職務満足度に関する研究ならびに同（2） 大妻女子大学家政学部系紀要

データからデザインする教師の組織的な学び 学事出版 ほか

【Outline (in English)】

Learn knowledge and skills necessary for analyses of raw data that were collected by quantitative methods. Learning objective of this course is to get knowledge and skills of quantitative methods. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of small reports 50% and final report 50%.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

SOC500M1 - 1103 (社会学 / Sociology 500)

質的調査法

佐藤 恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができ

ます。本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、質的調査・質的分析の諸方法について学びます。

【到達目標】

授業においては、まず、質的調査・質的分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。

その上で、調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。本講義での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、質的な分析を行うことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。

オンライン授業におけるZoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業ですが、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等も積極的に取り入れていきます。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。

各テーマを深く掘り下げることを通して、質的調査法についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
第2回	社会調査と社会認識、調査倫理（1）	社会科学における予言と観察の問題
第3回	社会調査と社会認識、調査倫理（2）	社会調査における倫理問題
第4回	インタビュー法（1）	構造化面接
第5回	インタビュー法（2）	非構造化面接、半構造化面接
第6回	インタビュー法（3）	インタビュー法実習
第7回	観察法（1）	統制的観察、非統制的観察（非参与観察）
第8回	観察法（2）	非統制的観察（参与観察）
第9回	ライフストーリー法	ライフストーリー・インタビュー
第10回	調査データの読解	調査データ読解上の注意
第11回	質的データの分析法（1）	K J法
第12回	質的データの分析法（2）	グラウンデッド・セオリー・アプローチ
第13回	質的データの分析法（3）	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、漸次構造化法
第14回	まとめ・総括	質的調査のメリット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象やテーマに関するアイデアを練り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていってください。

もう一つ、準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、1回1回の授業から質的調査に関する視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学（地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学）、社会調査（質的調査）。

<最近の研究テーマ>

支援の社会学（犯罪被害者支援、障害者支援、震災復興支援、ボランティア／NPO、ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ）。

<主要研究業績>

①『支援と物語（ナラティブ）の社会学—非行からの離脱、精神疾患、小児科医、高次脳機能障害、自死遺族の体験の語りをめぐる—』（共編、生活書院、2020年）

②『生きづらさを生き埋めにする社会—犯罪被害者遺族・自死遺族を事例として』（共著、『社会学評論』66(4)、2016年）

③『大震災の生存学』（共著、青弓社、2015年）

④『ピア・サポートの社会学—ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』（共著、見洋書房、2013年）

⑤『自立と支援の社会学—阪神大震災とボランティア』（単著、東信堂、2010年）

⑥『〈支援〉の社会学—現場に向き合う思考』（共編著、青弓社、2008年）

【Outline (in English)】

(Course outline)

Social Research refers to the process and methods of recognizing and understanding a social phenomenon by collecting data from the actual world and analyzing them.

Understanding of the social reality through social researches helps us see hitherto unnoticed matters and expand our knowledge.

Among various social research methods, this class focuses on “qualitative research,” which is independent of statistical calculations and figures, to cover various qualitative survey and analysis methods. (Learning Objectives)

This course introduces the basic learning of various qualitative survey and analysis methods to understand and explain them. The aim of this course is to help you do a qualitative analysis with the use of qualitative survey methods by yourselves.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to assemble the considerations for the surveyed objects and topics with gleaning literature.

It is also important to prepare the next lecture with the deep understandings of qualitative survey consistently after each class meeting.

Your required study time is at least two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Assignment: 50%, in class contribution: 50%

PSY500M1 - 1201 (心理学 / Psychology 500)

生涯発達心理学

岡田 昌毅

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

【到達目標】

キャリア関連の諸理論・アプローチを実践場面に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリア心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用について個人またはグループ毎に整理し、各自2つの課題に関する発表を行っていただく。発表会においてディスカッション、および課題に対する講評や解説を行う。

なお、本科目は対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方に関して説明する。
第2回	キャリア関連理論・アプローチ概説Ⅰ	本授業で取り扱うキャリア関連理論・アプローチについて概説する。（前半）
第3回	キャリア関連理論・アプローチ概説Ⅱ	本授業で取り扱うキャリア関連理論・アプローチについて概説する。（後半）
第4回	キャリアインタビューⅠ	キャリアインタビューの準備と実施。（前半）
第5回	キャリアインタビューⅡ	キャリアインタビューの準備と実施。（後半）
第6回	キャリア概要把握Ⅰ	インタビュー結果に基づきライフラインを作成する。
第7回	追加インタビューⅠ	追加インタビューを実施する。（前半）
第8回	追加インタビューⅡ	追加インタビューを実施する。（後半）
第9回	キャリア概要把握Ⅱ	ライフラインを完成させ、キャリア概要把握を完了する。
第10回	職業選択と適性Ⅰ	オラトに関する課題発表とディスカッション
第11回	職業選択と適性Ⅱ	【VPI職業興味検査実習】
第12回	キャリア発達論	スーパーのキャリア自己概念、ライフキャリアライン、キャリア発達段階に関する課題発表とディスカッション
第13回	キャリア構築論	ザカに関する課題発表とディスカッション
第14回	働く動機	マローの欲求5段階説、その他モチベーション論に関する課題発表とディスカッション
第15回	組織内キャリア発達Ⅰ	シャインのキャリア・アンカ、組織の3次元モデル等に関する課題発表とディスカッション
第16回	組織内キャリア発達Ⅱ	【キャリア・アンカ診断実習】
第17回	キャリア・プラト	山本寛のキャリア・プラトに関する課題発表とディスカッション
第18回	キャリア意思決定における社会的学習理論	バンデューラのセルフエフィカシー、社会的学習理論およびクルンボルトのキャリア意思決定、計画された偶発性に関する課題発表とディスカッション
第19回	キャリア意思決定	ジエットの意思決定プロセスに関する課題発表とディスカッション
第20回	関係性アプローチ	ホルのプロティン・キャリアに関する課題発表とディスカッション
第21回	統合的キャリア発達	ハセンの統合的キャリア発達に関する課題発表とディスカッション
第22回	トランジション論 〔出来事の視点〕	シュルバーグの出来事としての転機に関する課題発表とディスカッション
第23回	トランジション論 〔発達視点〕	ブリッジズの発達段階としてのトランジションに関する課題発表とディスカッション
第24回	アイデンティティのらせん式発達モデル	エリクソンのマーズ、岡本祐子に関する課題発表とディスカッション
第25回	キャリア・ストレスとワーク・ライフバランス	金井篤子の職務ストレス、キャリア・ストレス、ワーク・ライフバランスに関する課題発表とディスカッション
第26回	事例発表	個別にインタビューした事例にキャリア理論・アプローチを適用して発表する。

第27回	総合討論	あるテーマにキャリア理論・アプローチを適用し、グループ討議、および全体で共有する。
第28回	総括	授業を総括する。 (仕事、職業キャリア発達と心理・社会的発達に関する岡田のモデル他)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当テーマの発表準備。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

渡辺三枝子編著 2018 「新版キャリアの心理学 [第2版]」 ナカニシヤ出版

岡田昌毅著 2013 「働くひとの心理学－働くこと、キャリアを発達させること、そして生涯発達すること－」 ナカニシヤ出版

【参考書】

その他 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表（2回）【必須】（80％）。

授業への貢献（20％）。

なお、担当テーマは授業の中で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

社会人大学院生のニーズに応えられるよう継続的に工夫をいたします。

【学生が準備すべき機器他】

ICレコーダーをお持ちの方は初回授業時に持参してください。

【その他の重要事項】

授業は6月初旬～8月初の日曜集中で実施します。

初回授業においてそれ以降の授業で必要となるキャリア・インタビューを実施しますので、必ず出席してください。

授業日程・時間帯等が変則的ですので、ご注意ください。

なお、授業内容や順番など一部変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

キャリア心理学、キャリア・カウンセリング

<研究テーマ>

・仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究

・キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ

<主要研究業績>

・岡田昌毅・金井篤子：仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とプロセスの検討－企業における成人発達に焦点をあてて－、産業・組織心理学研究, 20, 51-62, 2006

・堀内泰利・岡田昌毅：キャリア自律が組織コミットメントに与える影響、産業・組織心理学研究, 23, 15-28, 2009

・高橋南海子・岡田昌毅：就職活動による自己成長感の探索的検討、産業・組織心理学研究, 26, 121-138, 2013

・原恵子・小玉正博・岡田昌毅：中堅キャリア支援者における職業的発達プロセスに関する探索的研究、キャリアデザイン研究, 9, 49-63, 2013

・菊入みゆき・岡田昌毅：職場における同僚間の達成動機の伝播に関する研究、産業・組織心理学研究, 27, 101-116, 2014

・正木澄江・岡田昌毅：企業従業員の働くことの意味醸成プロセスに関する探索的検討、産業・組織心理学研究, 28, 43-57, 2014

・中村准子・岡田昌毅：企業で働く人の職業生活における心理的居場所感に関する研究、産業・組織心理学研究, 30, 3-16, 2016

・須藤章・岡田昌毅：役職定年者の会社に留まるキャリア選択と組織内再適応プロセスの探索的検討、産業・組織心理学研究, 32, 15-30, 2018

・持田聖子・岡田昌毅：企業内ワーキングマザーの仕事と家庭の両立方略と働き方の変容プロセス、産業・組織心理学研究, 34, 147-163, 2021

・平林工志・岡田昌毅：児童養護施設利用者の心理的自立に至るプロセスと指導員による支援の関連性についての探索的研究、キャリア・カウンセリング研究, 23, 1-14, 2021

【Outline (in English)】

<Course outline>

In order for career counselors to provide appropriate support to their clients, it is desirable for them to approach the problems and issues faced by their clients from a variety of perspectives. By learning a wide range of career-related theories and approaches, students will understand the relationships and differences between them and acquire a foundation for applying them in practice.

<Learning Objectives>

To be able to apply various career-related theories and approaches to practical situations.

<Learning activities outside of classroom>

Preparation for presentation of assigned topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

<Grading Criteria /Policy>

Presentation of the theme (2 times) [Required] (80%)

Contribution to the class (20%).

The theme will be decided during the class.

PSY500M1 - 1202 (心理学 / Psychology 500)

教育心理学

田澤 実、輕部 雄輝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に【発達】【パーソナリティ・心理尺度】【学習理論】【認知・臨床】を学ぶ。これらは教育心理学の伝統的なテーマでもあり、キャリアとの関連性が深い特徴がある。

【到達目標】

- ・自らの関心テーマについて「学び」という観点から捉えることができる。
- ・他者の学びを支援する際に、教育心理学の専門的な知識を踏まえた工夫ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と授業内での発表。課題等の提出後に授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の内容について説明をする。(田澤)
第2回	教育心理学の近年の動向	教育心理学における近年の動向と授業で扱うテーマの関連を説明する。(田澤)
第3回	教育心理学における質的研究 (1)	教育心理学における質的研究の例を説明する。(輕部)
第4回	教育心理学における質的研究 (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第5回	教育心理学における量的研究 (1)	教育心理学における量的研究の例を説明する。(輕部)
第6回	教育心理学における量的研究 (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第7回	ソーシャルサポート (1)	ソーシャルサポート研究の流れを説明する。(輕部)
第8回	ソーシャルサポート (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第9回	動機づけ (1)	内発的動機づけ、外発的動機づけ等を説明する。(輕部)
第10回	動機づけ (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第11回	自己効力 (1)	Banduraの社会的学習理論について説明する。(輕部)
第12回	自己効力 (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第13回	セルフ・コンパッション (1)	セルフ・コンパッション研究の流れを説明する。(輕部)
第14回	セルフ・コンパッション (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(輕部)
第15回	レポート中間発表 (1)	受講者による発表。自らの関心テーマについて「学び」という観点からまとめる。質疑応答を行い、今後の方針を考える。(前半) (田澤)
第16回	レポート中間発表 (2)	受講者による発表。自らの関心テーマについて「学び」という観点からまとめる。質疑応答を行い、今後の方針を考える。(後半) (田澤)
第17回	キャリア意識の効果測定 (1)	大学におけるキャリア意識の発達に関する効果測定テスト (CAVT) の活用の例を説明する。(田澤)
第18回	キャリア意識の効果測定 (2)	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。(田澤)
第19回	時間的展望	個人が過去を振り返ったり、将来を見通したりすることについての心理学的な知見について説明する紹介する。(田澤)
第20回	性格の測定	教育心理学に関連した研究でよく用いられる性格テストを体験する。(田澤)
第21回	学習と教授法	学習理論に基づいた指導法を扱う。(田澤)

第22回	ワークショップによる学び	ワークショップを理解するための学習理論を説明する。(田澤)
第23回	経験学習	Kolbの経験学習を説明する。(田澤)
第24回	レポート進捗発表 (1)	各自、中間発表での指摘を受けて、レポートの完成を目指して最後の発表をする。(前半) (田澤)
第25回	発達障害	発達障害者の学習場面および就労場面においてはどのような困難が生じやすいのか説明する。(田澤)
第26回	レポート進捗発表 (2)	各自、中間発表での指摘を受けて、レポートの完成を目指して最後の発表をする。(後半) (田澤)
第27回	レポートのフィードバック (1)	最終レポートを返却し、解説を加える。(田澤)
第28回	レポートのフィードバック (2)	最終レポートについて質疑応答を行う。(田澤)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を事前に配布する。受講生にレジュメ発表を求める回もある。レジュメ発表の回数は受講者人数に合わせて調整する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

梅崎修・田澤実 2013 『大学生の「学び」とキャリア』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、レポート60%にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

教員が2名体制になり、昨年度も予定どおりに進めることができた。対面で行う回もあった方が良いという希望が受講生からあったため、最終日に行った。おおむね好評であった。今年度も、受講者に進行案を示し、意見を交わして、進め方の調整をしていく。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講者の人数によって、シラバスは変更することがある。また、受講者の関心にあわせて、扱う関連論文を変更することもある。初回の授業でその調整の仕方について説明する。

【Outline (in English)】

This syllabus outlines a course that introduces students to mental and physical development characteristics and the basic principles of learning theory. Upon completion of the course, students should be able to:

Acquire specialized knowledge in educational psychology that can be used to support the learning of others.

Explain their areas of interest from the perspective of learning.

Students are required to complete assignments after each class meeting. Given the preparation and review time, they should anticipate spending more than four hours per week on coursework. Grades will be determined based on reports (60%) and in-class contributions (40%).

PSY500M1 - 1203 (心理学 / Psychology 500)

産業・組織心理学

坂爪 洋美、谷口 ちさ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人々が働くことを通じて経験する現象を心理学的視点から理解しようとする学問領域です。例えば「こんな（低い）評価をあんな上司がつけたのかと思うとやる気にならない」という私達がどこかで経験する現象は、公平性・リーダーシップ・モチベーションといった概念で説明することができます。本授業では、このような産業・組織心理学の主要な概念について理解することを目的とします。授業では、人を人材として活用しようとする組織（主として企業）の観点と、より良く働こうとする個人（何を「良い」と考えるかは多岐に渡ります）の観点双方を意識し、各トピックについてレクチャーならびに議論していきます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①授業計画の部分で提示する産業・組織心理学の主要な概念を用いて、職場でおきている様々な現象を説明できるようになること
- ②産業・組織心理学の主要な概念をもちいた心理学系の論文を読みこなすことができるようになること
- ③修士論文作成を視野に入れた上で、産業・組織心理学の主要な概念をもちいて、自ら仮説の提示をできるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業実施形態は、初回のオリエンテーションで受講者と相談の上決定します。なお、初回のオリエンテーションは、対面で行います。初回のオリエンテーションで担当論文の決定等を行いますので、必ず出席してください。各回の授業は、前半に講義・後半がディスカッションもしくは論文の輪読となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業内容に対する質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に、授業終了後に寄せられた質問に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。この授業は2名の担当教員がそれぞれ14回ずつ担当します（詳細はオリエンテーション時に説明します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション①	授業の内容ならびに進め方を紹介する
第2回	授業オリエンテーション②	心理学というパースペクティブに基づく物事の捉え方について説明した上で、受講生の問題意識をお互いに紹介する。
第3回	モチベーション①	モチベーションの基本的な理論についてレクチャーする。
第4回	モチベーション②	モチベーションの簡単な関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第5回	心理学系の論文を読む①	心理学系の論文の読み方をレクチャーする
第6回	心理学系の論文を読む②	心理学系の論文を実際に読んでディスカッションを行う
第7回	リーダーシップ①	リーダーシップの基本的な理論についてレクチャーする。
第8回	リーダーシップ②	リーダーシップの関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第9回	公平性①	評価をめぐる議論となる公平性についてレクチャーする。
第10回	公平性②	公平性の関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第11回	キャリア（1）主要な概念①	キャリアの主要な概念について概観する。
第12回	キャリア（1）主要な概念②	キャリアの主要文献を読み、ディスカッションを行う。
第13回	キャリア（2）時代を捉えた概念①	昨今の雇用環境の変化を反映するキャリアの概念について概観する。
第14回	キャリア（2）時代を捉えた概念②	キャリアの主要文献を読み、ディスカッションを行う。
第15回	組織コミットメント①	組織と個人の関係性を示す概念である組織コミットメントについてレクチャーする。

第16回	組織コミットメント②	組織コミットメントに関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第17回	課題レポートの書き方①	レポートの構成等レポート作成する上で必要となるスキルをレクチャーする。
第18回	課題レポートの書き方②	レポートの書き方についてのディスカッションを行う。
第19回	ストレスとエンゲージメント①	ストレスとエンゲージメントについてレクチャーを行う。
第20回	ストレスとエンゲージメント②	ストレスとエンゲージメントについてディスカッションを行う。
第21回	ダイバーシティ・マネジメント①	ダイバーシティに関する基本的な考え方についてレクチャーを行う。
第22回	ダイバーシティ・マネジメント②	ダイバーシティ・マネジメントに関する論文を読み、ディスカッションを行う。
第23回	最終レポート検討会①	最終レポートについてのディスカッションを行う（第1グループ）
第24回	最終レポート検討会②	最終レポートについてのディスカッションを行う（第2グループ）
第25回	最終レポート検討会③	最終レポートについてのディスカッションを行う（第3グループ）
第26回	最終レポート検討会④	最終レポートについてのディスカッションを行う（第4グループ）
第27回	最終レポート検討会⑤	最終レポートについてのディスカッションを行う（第5グループ）
第28回	最終レポート検討会⑥	最終レポートについてのディスカッションを行う（第6グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献については、受講者全員が事前に読んで出席することを求めます。また、指定文献のレジュメ作成を受講者で分担します。これとは別にレポート提出を求めます（レポートの内容については初回の授業で説明します）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません

【参考書】

授業内で適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

担当するレジュメ 30%
期末に提出するレポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

指定文献の分析方法に幅を持たせること、課題の難易度をスモールステップで高めていくことで、様々な学生のニーズに対応できるようにします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業・組織心理学 人材マネジメント

<研究テーマ>

ダイバーシティ・マネジメント ならびに ワーク・ライフ・バランス

<主要研究業績>

佐藤博樹・武石恵美子・坂爪洋美（2022）『多様な人材のマネジメント』中央経済社。

坂爪洋美・高村静（2020）『シリーズダイバーシティ経営 管理職の役割』中央経済社。

坂爪洋美（2016）「大学生の組織選好度の推移：2004年から2016年までの変化」生涯学習とキャリアデザイン, 3-19.

坂爪洋美（2015）「管理職がいだく育児を理由とした短時間勤務制度利用者のキャリア展望：その影響と規定要因の検討」生涯学習とキャリアデザイン, 61-76.

坂爪洋美（2014）「大学生のキャリア・オリエンテーションの変化：2004年～2012年のデータをを用いた分析」和光大学現代人間学部紀要, 7, 195-214.

坂爪洋美（2014）「職業紹介担当者の能力ならびにスキル：ハイ・パフォーマンスの特徴を明らかにする」『人材サービス産業の新しい役割』, 有斐閣。

坂爪洋美（2012）「多様な人材の活躍を可能にするワーク・ライフ・バランス」『＜先取り志向＞の組織心理学』, 有斐閣

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

組織行動 人材育成

<研究テーマ>

キャリア教育 / 高齢者雇用 / ジョブ・クラフティング / ネットワーク理論

<主要研究業績>

谷口ちさ・石山恒貴（2024）「向社会的モチベーションの自律的側面がメンタリング機能に及ぼす影響」経営行動科学, 35(3), 75-87.

谷口ちさ・石山恒貴（2022）「組織を越えたデベロップメンタル・ネットワークにおける社会人メンターの参画動機と獲得利益—大学生プロテジェを支援するメンタリング・プロセスに着目して—」キャリア・カウンセリング研究, 23(2), 79-89.

勝田 千砂, 石山 恒貴（2018）「持続可能な地方移住のための組織社会化理論の地域応用：土佐山地域を事例とした“地域社会化” 地域活性研究, 9, 124-133.

【Outline (in English)】

Course outline

This course will provide an Introduction to Industrial and Organizational Psychology, a scientific discipline that studies human behavior in the workplace. The goal of this course is to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of Industrial and Organizational Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of Industrial and Organizational psychology.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report:70%, Short reports:30%.

PSY500M1 - 1204 (心理学 / Psychology 500)

キャリアカウンセリング論

廣川 進、高橋 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストによるカウンセリングの理論の理解と、事例検討によるキャリアカウンセリングによるキャリア開発、キャリア形成支援のありかたを具体的に事例を交えて深く学ぶ。実習中心のワークを取り入れてカウンセリング技術の向上も図る。

【到達目標】

キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的理解、心理学による人間行動の基本的理解、コミュニティ心理学における「人と環境の適合」についての基本的理解、カウンセリングの機能とその役割を理解し、それぞれ必要とされる場面において適切なクライアント理解とその支援ができるカウンセリング力を学生が身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

第1回～第14回（全14回）の授業を廣川 進、第15回～第28回（全14回）の授業を高橋 浩が担当する。

カウンセリング、キャリアカウンセリングの理論の理解を基礎として、その応用となる事例の理解を合わせて行ないながら、実践的な側面からもキャリアカウンセリングを理解する。講義とそれに関する課題の討議、また、講義にそって、キャリアカウンセリングの事例の検討、討議を行ない、実践的事例を通して、実践的な力も合わせてつける。ロールプレイなどの実習も取り入れて、ワンランク上のカウンセリング技術の習得めざす。

授業の形式は以下の2つのパターンからなる。A) テキストを受講生が分担してレジュメを作り発表し討議する。B) 受講生が提供する事例をもとに事例検討する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	現代社会で求められるキャリアカウンセリングのニーズに適応に応えることができるためには、キャリアカウンセリング、キャリアカウンセラーはどうあるべきか。その定義と役割・機能について 第1章～2章
2.	臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務	
3.	臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務	第3章～4章
4.	臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務	第5章～6章
5.	臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務	第7章～8章
6.	臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務	第9章
7.	アセスメント	多軸のアセスメントについて理解する
8.	PCAGIP法による事例検討	院生からの事例を検討する
9.	「ブリーフセラピーの極意」2章1・2	1) リソースを見つける 2) コンプリメント
10.	「ブリーフセラピーの極意」2章3・4	3) ミラクル・クエスション 4) ミラクル・クエスションのバリエーション
11.	「ブリーフセラピーの極意」2章5・6	5) ゴール設定 6) スケールクエスション
12.	「ブリーフセラピーの極意」2章7・8	7) アクションと課題 8) 問題の外在化
13.	事例検討 基礎	院生からの事例を検討する PCAGIP法を用いて

14.	事例検討 応用	院生からの事例を検討する 生物心理社会モデルを用いて
15.	コミュニティ心理学概論	コミュニティ心理学の基本的発想や諸概念について解説と議論を通じて理解をする
16.	コミュニティ心理学とキャリアカウンセリング	コミュニティ心理学における介入とキャリア支援との関連について解説と議論を通じて理解する
17.	コミュニティ心理学とキャリアカウンセリングの関連性について発表1	コミュニティ心理学の「定義・理念」と発表者のキャリア支援との関連について発表と議論を行う
18.	コミュニティ心理学とキャリアカウンセリングの関連性について発表2	コミュニティ心理学の「基本的発想」と発表者のキャリア支援との関連について発表と議論を行う
19.	コミュニティ心理学とキャリアカウンセリングの関連性について発表3	コミュニティ心理学の「背景となる理論」と発表者のキャリア支援との関連について発表と議論を行う
20.	コミュニティ心理学とキャリアカウンセリングの関連性について発表4	コミュニティ心理学の「介入と評価方法」と発表者のキャリア支援との関連について発表と議論を行う
21.	コミュニティ・アプローチの手順	コミュニティ・アプローチの実践方法・手順について解説する
22.	コミュニティ・アプローチの介入事例紹介	コミュニティ・アプローチの介入事例を検討して、その方法・手順の理解を深める
23.	コミュニティ・アプローチの事例検討1	発表者のキャリア支援事例（学校領域）を基に、コミュニティ・アプローチの適用について討議する
24.	コミュニティ・アプローチの事例検討2	発表者のキャリア支援事例（福祉領域）を基に、コミュニティ・アプローチの適用について討議する
25.	コミュニティ・アプローチの事例検討3	発表者のキャリア支援事例（企業領域）を基に、コミュニティ・アプローチの適用について討議する
26.	コミュニティ・アプローチの事例検討4	発表者のキャリア支援事例（需給調整領域）を基に、コミュニティ・アプローチの適用について討議する
27.	キャリアカウンセリングの研究概要の発表1	これまでの学習を活かし、各自のリサーチクエスションについてのグループ討議を行う
28.	キャリアカウンセリングの研究概要の発表2	各自のリサーチクエスションに基づき、研究計画等についての発表とその妥当性について討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なキャリアカウンセリングの具体的な事例を収集して、事例検討の場に活用できるように準備をする。（個人情報などの取り扱いに注意）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

○廣川

「臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務」中田行重（創元社）2022年

「ブリーフセラピーの極意」森俊夫（ほんの森出版）2015年

○高橋

「実践コミュニティアプローチ」原裕視(監)・高橋浩(編著)（金子書房）2024年
「よくわかるコミュニティ心理学」[第3版] 植村勝彦ら（ミネルヴァ書房）2017年

【参考書】

日本労働研究雑誌 2024年特別号(No.763)

「サステナブルキャリアに基づく能力開発とキャリア形成の個人視点からの再検討—タレント、越境学習、リスクリング、キャリア自律に注目して」石山恒貴（法政大学大学院教授）

chrome-extension://efaidnbmnmnnpcajpcglclefindmkaj/https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2024/special/pdf/030-039.pdf

京都女子大学紀要 現代社会研究 23号（2021-01-31）「持続可能なキャリアというパラダイムの意義と今後の展望について」

北村, 雅昭

chrome-extension://efaidnbmnmnnpcajpcglclefindmkaj/http://repo.kyoto-wu.ac.jp/dspace/bitstream/11173/3202/1/0130_023_005.pdf

「これで解決! シゴトとココロの問題」廣川 進（労働新聞社）
「ナラティブ・セラピー・ワークショップ 基礎知識と背景概念を知る」国重

浩一（北大路書房）2021年

「関係の世界へ」ケネス・ガーゲン（ナカニシヤ出版）
「持続可能なキャリア 不確実性の時代を生き抜くヒント」北村雅昭（大学教育出版）2022年

「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」（労働政策研究・研修機構）

「社会正義のキャリア支援」下村英雄 図書文化
「セルフ・キャリアドック入門」高橋浩 金子書房

「システムズアプローチ入門: 人間関係を扱うアプローチのコミュニケーションの読み解き方」中野 真也・吉川 悟 ナカニシヤ出版

「キャリアを超えて ワーキング心理学 働くことへの心理学的アプローチ」DLブルステイン（白桃書房）

授業中に適宜文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

討論への参加状況(40%)

提出課題(60%)

【学生の意見等からの気づき】

事例検討は長時間にわたって受講者の負担が大きくならないように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

廣川が担当する初回の授業時にテキスト、以下の2冊を入手して持参ください。
「臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務」中田行重（創元社）2022年
「ブリーフセラピーの極意」森俊夫（ほんの森出版）2015年
初回授業時にレジュメ発表者の分担を決めます。

【担当教員の専門分野等】

廣川 進：

臨床心理学、生涯発達心理学、キャリア心理学とキャリアカウンセリング
産業心理学を専門とする

高橋 浩：

キャリア心理学、カウンセリング心理学、産業・組織心理学、コミュニティ心理学

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course explores the theoretical foundations and practical applications of counseling in the context of career development and career support. Students will examine key concepts in counseling psychology and career counseling while analyzing case studies related to career decision-making, career transitions, and career development across the lifespan.

Through case analyses, discussions, and practice-oriented activities, students will learn how counseling theories can be applied to real-world career issues. The course emphasizes the integration of theory and practice and aims to develop fundamental counseling skills necessary for professional work in career counseling and related helping professions.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to:

Explain the basic concepts and theoretical foundations of counseling relevant to career counseling.

Explain the functions and roles of career counseling in supporting individuals' career development.

Analyze human behavior and career-related issues from psychological perspectives relevant to counseling practice.

Analyze career development processes using the concept of person – environment fit in community psychology.

Apply basic counseling skills to understand clients and support their career development and decision-making.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to collect examples of career counseling cases from everyday contexts and bring them to class for case discussions and analyses.

Students are also required to complete assignments after each class meeting. Preparation, review, and assignment work related to each class session are expected to require more than four hours of independent study.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the course will be determined based on the following components:

Term-end report: 60%

Class participation and contribution to discussions: 40%

SOC500M1 - 1205 (社会学 / Sociology 500)

コミュニティとキャリア

田中 研之輔、安田 節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コミュニティとキャリアに関する①理論的視座を多面的・経験的に習得した上で、②実践的視座を組織エスノグラフィーとプログラム評価の観点から理解し、調査・研究のデザインの方法を学ぶ。

前半の第1回～第14回（担当：田中）では、コミュニティを考える上で重要な視点となる「(社会・物質)空間」と「(社会)集団」への見識を深め、この空間的視座と集団論的視座を交錯させながら、組織エスノグラフィーの視点から実践的に検討する。

また後半の第15回から第28回（担当：安田）では、企業組織・教育機関・地域コミュニティで実施されるキャリア支援や人材育成・組織開発をプログラムの視点から構造化し、その効果や成果をデータに基づいて構造化し、その効果や成果をデータに基づいて評価し、活動の質向上につなげるための方法論であるプログラム評価について理解を深める。

【到達目標】

- ①コミュニティとキャリアに関する理論的視座の包括的理解と具体的事例の洞察的分析をできるようにする。
- ②コミュニティとキャリアに関する実践的視座を『組織エスノグラフィー』と『プログラム評価』の観点から理解し、実践研究の設計・デザインを行うことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は、各回において、「理論」と「経験的事例」とを相互に行き来しながら検討を進めていく。各回ともに、前半は理論的視座および実践的視座について解説を加える。後半はコミュニティとキャリアに関する具体的な問題をとりあげ、ディスカッション形式を適宜取り入れながら理解を深めていく。受講生は課題論文を読み込み、議論への積極的な参加を求める。

フィードバックは、リアクションペーパーと課題への全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	組織エスノグラフィーにおけるコミュニティとキャリア	組織エスノグラフィーという手法をも用いてコミュニティとキャリアを考察する理論的視座の導入的理解をすすめる
第2回	組織エスノグラフィーの学問的系譜	組織エスノグラフィーの学問的系譜を整理する
第3回	組織エスノグラフィーの集団分析	組織エスノグラフィーの集団分析について見識を深める
第4回	組織エスノグラフィーの空間分析	組織エスノグラフィーの空間分析について見識を深める
第5回	組織エスノグラフィーのキャリア分析	組織エスノグラフィーのキャリア分析について見識を深める
第6回	組織エスノグラフィーの関係分析	組織エスノグラフィーの関係分析について見識を深める
第7回	組織エスノグラフィーの方法論	組織エスノグラフィーの方法論を習得する

第8回	組織エスノグラフィーの読み方	組織エスノグラフィーの読み方を習得する
第9回	組織エスノグラフィーの書き方	組織エスノグラフィーの書き方を学ぶ
第10回	組織エスノグラフィーの記述分析	組織エスノグラフィーの記述を分析する
第11回	組織エスノグラフィーの構造化	組織エスノグラフィーの構造化を学ぶ
第12回	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方について理解する
第13回	組織エスノグラフィーの伝え方	組織エスノグラフィーの伝え方について理解する
第14回	組織エスノグラフィーの報告会	組織エスノグラフィーの研究構想について検討を行う
第15回	ガイダンス	後半の授業概要の説明と学修目標の確認など
第16回	プログラム評価とは	ライフキャリア支援等を目的とした「プログラム」を「評価」することの意義をプログラム評価の定義から学ぶ
第17回	評価の目的と評価者の役割	プログラム評価の目的および評価者・ステークホルダーの役割について検討する
第18回	ニーズアセスメント	プログラムやサービスの利用者（クライアント）のニーズの分類とニーズアセスメントの種類について検討する
第19回	問題分析	プログラムが必要となる社会的背景（問題・課題）の分析を行う
第20回	ゴールの可視化	活動方針やゴールを可視化する方法を学ぶ
第21回	ロジックモデルの開発①	プログラムの流れを可視化するためのツールであるロジックモデルの原案を作成する
第22回	ロジックモデルの開発②	ロジックモデルを完成させる
第23回	評価クエスション	評価の実施を想定した評価クエスションを設定する
第24回	評価可能性アセスメント	実際に評価が可能か否かを査定する評価可能性アセスメントについて学ぶ
第25回	プロセス評価	プログラムの流れ（プロセス）を評価する方法を学ぶ
第26回	アウトカム評価①	アウトカム指標の検討を行う
第27回	アウトカム評価②	主にフィールドでの実験・準実験デザインによるアウトカム評価の概要を学ぶ
第28回	まとめ	テクニカルレポート（評価報告書）の内容と作成方法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、授業支援システムやオンラインツールを用いて、各回の課題論文を共有していく。各回の課題論文を読み込み、各自の論点メモを準備してください。また、授業内で課題として残った疑問や授業後にあらためて抱いた疑問や論点等についても、授業支援システム等で議論を重ねていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔・山本和輝 2019『辞める研修 辞めない研修—新人育成の組織エスノグラフィー』（ハーベスト社）

安田節之 2011『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために』（新曜社）

*その他、必要となる課題論文はPDF版にして事前に配布します。

【参考書】

田中研之輔 2015『井家の経営—24時間営業の組織エスノグラフィー』（法律文化社）

田中研之輔・山崎正枝 2016『走らないトヨタ—南国の組織エスノグラフィー』（法律文化社）

安田節之・渡辺直登 2008『プログラム評価研究の方法』（新曜社）

コミュニティ心理学会研究委員会 2019 『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（新曜社）
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題への取り組みや講義への参加姿勢）50%+課題レポートの総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する補足文献を適宜アップデートしていく。

【担当教員の専門分野等】

田中研之輔

<専門領域>

ライフキャリア論・社会学

<研究テーマ>

組織エスノグラフィー・プロティアン キャリア論

<主要研究業績>

『覚醒せよ、わが身体トリアスリートのエスノグラフィー』（2018）

ハーベスト社

『走らないトヨタネットワーク南国の組織エスノグラフィー』（2016）法律文化社

『井家の経営ー24時間営業の組織エスノグラフィー』（2015）法律文化社

* その他 → <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/21/0002083/profile.html>

【担当教員の専門分野等】

■ 安田節之

<専門領域>

プログラム評価論，コミュニティ心理学

<研究テーマ>

対人・コミュニティ援助の評価研究およびコンサルテーション研究，超高齢社会におけるライフキャリア研究，ベストプラクティス・アプローチに基づく評価研究など

<主要研究業績>

① 『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）』（安田節之，2011年，新曜社）

② 『プログラム評価研究』（安田節之・渡辺直登，2008，新曜社）

③ 『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（日本コミュニティ心理学会研究委員会，2019年，新曜社）

参 考： <https://programevaluationlab.jp/training/program-evaluation/>

【Outline (in English)】

The first half of this course aims to provide a “how to” of organizational ethnographic research and, in the process, examine the epistemology, conduct, and power relations of fieldwork. Organizational ethnography is useful in a wide range of settings for research questions that seek to explore the meanings to situational actors of particular practices, concepts or processes.

In the second half of the class, students will learn how to address a variety of issues and problems that are pertinent to one's career in the industrial/educational organizations and local communities on research studies. In particular, we focus attention on theories and methods of program evaluation (PE). PE is a systematic approach that helps researchers/practitioners to identify critical issues and structures for understanding and improving programs. Special attentions will be placed on learning how one can measure processes and effectiveness of the programs that are of interest to each student.

【Work to be done outside of class】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

EDU500M1 - 1301 (教育学 / Education 500)

キャリアガイダンス論

藤田 晃之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、キャリアガイダンスを「キャリア支援・教育」とほぼ同義のものと広く解する。そのうえで、キャリアガイダンスの制度・システムや政策にかかわる諸問題を踏まえつつ、より実践に近い支援現場における課題について、理論的に検討することをねらいとする。

支援場面における問題や課題の背景には、当然、社会構造や労働市場の動態、企業の雇用方針、政策動向といった問題が存在しているので、本来、両者を切り離すことはできない。

【到達目標】

受講者が、①さまざまな場におけるキャリアガイダンスの諸課題について、社会的背景と現場の問題とを往還しながら理解できるようになること、②そのうえで、問題解決への見通しを展望できるようになることが、本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業において、主として検討の対象とするのは、①初等・中等教育段階におけるキャリア支援・教育、および②コミュニティにおける若年キャリア支援である。

必要に応じて、キャリアガイダンスにかかわる理論や実態調査の報告書の検討、諸外国で行われているキャリアガイダンス施策の事例紹介なども行う。授業の方法としては、①教員によるレクチャー、②報告者によるレポート発表（文献発表、個人報告）、③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは、②と③である。

キャリア支援の現場にいる実践者をゲストにお呼びしてディスカッションすることも検討したい。

提出された課題等へのフィードバックは、授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス①	授業の内容・方法・進め方について説明する。
第2回	授業ガイダンス②	「キャリアガイダンス」をどう把握するかについて、講義とディスカッションを行う。
第3回	キャリア教育とキャリア教育政策①	キャリア教育の捉え方、および日本における政策展開について講義する。
第4回	キャリア教育とキャリア教育政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第5回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）①	学校で行われている職場体験・インターンシップについて講義する。
第6回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）②	レポート発表、全体でのディスカッションを行う。
第7回	学校におけるキャリア教育（進路指導）①	学校における進路指導について、講義する。
第8回	学校におけるキャリア教育（進路指導）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第9回	学校におけるキャリア教育（教科）①	教科教育を通じたキャリア教育について、講義する。
第10回	学校におけるキャリア教育（教科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第11回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）①	高校普通科におけるキャリア教育の現状と課題について講義する。
第12回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第13回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）①	学校で行われるキャリアカウンセリングについて講義する。
第14回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第15回	諸外国におけるキャリア教育①	諸外国におけるキャリア教育について講義する。
第16回	諸外国におけるキャリア教育②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

第17回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）①	大学で実施されているキャリア教育科目について講義する。
第18回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第19回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）①	大学生の就職活動、および大学におけるその支援の現状について講義する。
第20回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第21回	若年支援と若年支援政策①	若年支援の捉え方、および諸外国と日本における若年支援策について講義する。
第22回	若年支援と若年支援政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第23回	ジョブカフェにおけるキャリア支援①	ジョブカフェにおけるキャリア支援の実態と課題について講義する。
第24回	ジョブカフェにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第25回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援①	若者サポートステーションにおけるキャリア支援の現状と課題について講義する。
第26回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第27回	高校・大学中退者に対するキャリア支援①	高校・大学中退者に対するキャリア支援の課題について講義する。
第28回	高校・大学中退者に対するキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される指定文献を読み込み、疑問点や評価できる点等を精査して

くすること。
文献発表および個人報告に際しては、入念な準備を行い、授業時に報告する前に、担当教員からの指導を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

授業時に、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業内で発表するレポートによって行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によって、パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

授業に関連したディスカッションや情報交換を促す目的で、SNS等のソーシャルネットワークを活用する。（具体的には、Facebookを予定）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 教育学

<研究テーマ> キャリア教育、学校から社会への移行支援

<主要研究業績>

①『仕事の図鑑』（監修、ナツメ社、2022年）

②『海外の教育改革「改訂版」』（編著、放送大学教育振興会、2021年）

③『キャリア教育フォービギナーズ』（実業之日本社、2019年）

④『日本の産業大事典』（監修、あかね書房、2019年）

⑤『キャリア教育』（編著、ミネルヴァ書房、2018年）

⑥『キャリア教育基礎論』（実業之日本社、2014年）

⑦『講座日本の高校教育』（編著、学事出版、2008年）

⑧『新しいスタイルの学校：制度改革の現状と課題』（数研出版、2006年）

⑨『キャリア教育開発研究序説』（教育開発研究所、1997年）

【Outline (in English)】

<Course outline>

This course introduces the concept, theories, policies and methods of career guidance, and discuss about examples of practice in Japan.

<Learning Objectives>

The aim of this course is to help students understand career guidance theoretically and practically as a whole.

<Learning activities outside of classroom>

Students will be expected to work on the indicated task before each class meeting.

Preparation for presentation of assigned topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

<Grading Criteria/Policy>

Your overall grade in the class will be decided based on mid-term report(100%).

EDU500M1 - 1302 (教育学 / Education 500)

教育経営論

仲田 康一、村上 純一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校組織や経営管理に関する研究に必要な概念、視角、方法を習得するため、文献検討やディスカッションを行う。その際には、社会変動や教育政策・法制といったマクロな要因や、よりミクロな現場での実践との相互関係も視野に入れる。

【到達目標】

学校組織や経営管理に関する研究に必要な概念、視角、方法を理解し、それを用いて論述ができる。単にこれまでの研究を知るだけでなく、自らが修士論文を執筆するという目的意識に沿って、例えば、調査法や論証法の参考として、表現の手本として、論敵として・・・といった様々な角度から文献を読み解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

初日はZoomで行う（URLは学習支援システムで連絡する）。それ以降については、対面形式で行う。文献購読においては、報告主担当を設定するが、主担当だけでなく全員がコメントを作成して臨むものとする。コメントシートの配布・共有方法については、初回の授業で連絡する。提出物や各自の発表に対するフィードバックは、授業中に全体に向けて行う。また、各自の研究テーマを、本授業の内容と関係付けながら整理し、クラスメイトと討議する場面を設ける。ただし、受講生数によっては、受講生の負担の均整化などのため、上記とは異なる方針を取ることもある。合意の上で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進行、内容、成績評価等についての説明と合意（担当：仲田・村上）
第2回	自己紹介	自己紹介、各々の問題関心の交流（担当：仲田・村上）
第3回	研究をするということ	研究をするプロセスの概略（担当：仲田）
第4回	論文を書くということ	論文を書くプロセスの概略（担当：仲田）
第5回	教育改革の構造(1)	現代の学校教育の課題（担当：仲田）
第6回	教育改革の構造(2)	教育改革の国際的潮流（担当：仲田）
第7回	教育改革の構造(3)	教育政策形成（担当：仲田）
第8回	教育改革の構造(4)	教育政策決定（担当：仲田）
第9回	教育改革の展開(1)	地方分権改革の進展（担当：仲田）
第10回	教育改革の展開(2)	自律的学校経営の展開（担当：仲田）
第11回	教育改革の展開(3)	学校と地域社会の連携による学校づくり（担当：仲田）
第12回	教育改革の展開(4)	学校と地域社会の連携による教育課程（担当：仲田）
第13回	各自の研究関心の交流(1)	研究構想の発表（担当：仲田）
第14回	各自の研究関心の交流(2)	主要先行研究の相互紹介（担当：仲田）
第15回	教育経営の今日的課題(1)	教員養成・採用における諸課題（担当：村上）
第16回	教育経営の今日的課題(2)	教師の働き方・キャリア形成（担当：村上）
第17回	教育経営の今日的課題(3)	公教育における私費負担・「受益者」負担の問題（担当：村上）
第18回	教育経営の今日的課題(4)	公教育の無償性（担当：村上）
第19回	学校経営の今日的課題(1)	授業改革・探究学習の潮流（担当：村上）
第20回	学校経営の今日的課題(2)	教育実践とAI／ICTの活用（担当：村上）
第21回	学校経営の今日的課題(3)	学校の防災・災害対応（担当：村上）
第22回	学校経営の今日的課題(4)	学校の「安心・安全」を考える（担当：村上）
第23回	教育経営と福祉(1)	教育と「子どもの貧困」（担当：村上）

第24回	教育経営と福祉(2)	子ども・若者の「居場所」（担当：村上）
第25回	教育経営とキャリアデザイン(1)	キャリア教育の制度的・政策的変遷（担当：村上）
第26回	教育経営とキャリアデザイン(2)	生涯学習社会における学校教育のあり方（担当：村上）
第27回	まとめと内省(1)	授業内容全体の総括（担当：仲田・村上）
第28回	まとめと内省(2)	共同でのリフレクション（担当：仲田・村上）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題文献を読み、各自がコメントシートを作成することを予習として求める。また、各自が立てたテーマに即した中間報告と最終報告に向けた事前準備も必要になる。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

毎回の発表を50%、中間・最終報告を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、受講者の実践的な問題意識を活かせるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで配布物を共有するため、インターネットに接続したPCまたはタブレットが必要である（持参できない場合は相談してほしい）。

【その他の重要事項】

受講生の研究課題を踏まえ、トピックや文献の選定に反映させる。研究をする、論文を書く準備として文献を読むということの練習になるよう配慮する。

【担当教員の専門分野等】

★仲田康一

<専門領域>

教育政策・法制研究、教育経営論

<研究テーマ>

国・地方の教育政策形成と実施の分析、学校経営（特に、学校と地域社会や福祉領域との協働）

<主要研究業績>

『コミュニティと教育』（放送大学教育振興会、共編著、2024年）

『地域教育計画』（大学教育出版、分担著、2022年）

『コミュニティ・スクールのポリティクス』（勁草書房、単著、2015年）、

『学力工場の社会学』（Christy Kulz 著、監訳、明石書店、2020年）

『教育にこたわらぬということ』（Gert Biesta 著、分担訳、東京大学出版会、2021年）

『教育政策の政治社会学』（Helen Gunter 著、分担訳、同時代社、2025年）

★村上純一

<専門領域>

教育行政学、現代学校教育論

<研究テーマ>

キャリア教育政策、現代学校改革の諸問題、教育行政と他行政分野との連携・競合

<主要研究業績>

『教育課程論【新訂第2版】』（小野まどか・御手洗明佳・坂田仰編、教育開発研究所、2024年）第5章「教育課程の変遷（3）―「生きる力」と「基準性」の明確化」

『教育制度を支える教育行政』（青木栄一編、ミネルヴァ書房、2019年）第10章「学校安全」

「キャリア教育政策をめぐるイシュー・ネットワークの変遷」（日本教育学会『教育学研究』第83巻第2号、2016年、pp.181-193）

「ICTから考える学校教育の『臨界』―小学校プログラミング教育必修化と『デジタル教科書』への視点を中心に」（『日本教育政策学会年報』第27号、2020年、pp.53-66）

「子ども・若者の『第三の居場所』論に関する一考察（文教大学付属生活科学研究『生活科学研究』第46集、2024年、pp.97-101）

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The objective of this class is to learn the theories, concepts, and perspectives that relate to educational management, taking into account macro-factors such as social change, educational policy, and legislation, as well as micro practices at the chalkface.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are expected to understand the theories, concepts, and perspectives necessary for research on school management. Students are expected to be able to read and understand literature deeply and critically.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be required to read the literature assigned for each session and prepare their own comment sheets. Students will also be required to prepare for the mid-term and final presentations on their own topics. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Contribution to discussion: 50%, Mid- and final-term report: 50%

EDU500M1 - 1303 (教育学 / Education 500)

キャリア教育論

上西 充子、児美川 孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の学校から職業への移行の困難や若者の働き方の現状とキャリア教育の政策・実践を照らし合わせ、キャリア教育・キャリア支援が行うべきことは何であるのかを、一歩引いた視点から改めて問い返す。キャリア教育が実施されている各学校段階やステージごとに、現時点で何が問題であり、論点になっているのかについて考察する。

【到達目標】

受講者一人一人が、①それぞれの現場におけるキャリア教育・キャリア支援の抱える課題を認識し、キャリア教育・キャリア支援の枠組みを再考し、再構築できるようになること、②キャリア教育・キャリア支援をめぐる論点や争点を「評論」する立場からではなく、当事者に寄り添った視点から検討できるようにすること、が本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、①教員によるレクチャー、②報告者による発表（課題文献の要約と論点提示、個人報告）、③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは、②と③である。テーマごとにあらかじめ関連する文献を読み、レジュメの作成と論点の提示をもとにディスカッションを行う。受講者の実践現場の事例の報告と検討なども取り混ぜて行いたい。また、キャリア支援の現場にいる実践者をゲストに呼び添ってディスカッションすることも検討したい。

提出された課題等へのフィードバックは、授業時に行う。

テーマとしては下記の授業計画の内容を考えているが、受講者の問題関心に応じて多少の変更がありうる。

第1～14回を上西が、第15～28回を児美川が担当する。なお、第1回授業では上西・児美川両名による授業ガイダンスを行う。

オンラインで授業を行う際には、Zoomを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のねらいと授業計画／担当教員紹介／自己紹介と問題意識の共有
第2回	文献の紹介	文献の種類と主要な文献を紹介する。
第3回	論点の理解と考察	論点に即した検討を行い、説得力のある論述を行う。
第4回	多様な他者の理解	”溜め”への注目から「意欲の貧困」を検討する。
第5回	他者の合理性の理解とは	「他者の合理性の理解」を通して、みずからの視点を問い直す。
第6回	調査と調査倫理	調査と発表において踏まえるべき調査倫理を検討する。
第7回	キャリア支援と社会正義	社会正義の視点を踏まえたキャリア支援を検討する。
第8回	社会正義フレームワーク	「社会正義フレームワーク」に照らし合わせながらみずからの業務を振り返る。
第9回	現場の課題と取り組み	各自の現場の課題と取り組みを共有する。
第10回	政策としてのキャリア教育の開始	キャリア教育施策の開始と当時の労働市場の状況を振り返る。
第11回	政策としてのキャリア教育の展開	キャリア教育の定義の変遷を検討する。／職業教育の位置づけを検討する。
第12回	大卒就職とキャリア支援	大卒就職の現状と課題に対応したキャリア支援を検討する。
第13回	キャリア教育と労働法教育	キャリア教育の視点と労働法教育の視点を検討する。
第14回	振り返りとまとめ	授業（前半）の振り返りを行う。
第15回	授業（後半）のガイダンス	授業（後半）の内容・方法・進め方について説明する。
第16回	課題意識の共有	授業（前半）の振り返りを踏まえ、各自の問題意識を共有する。
第17回	学校教育におけるキャリア教育①	「夢（やりたいこと）」を軸にしたキャリア教育のあり方を検討する。

第18回	学校教育におけるキャリア教育②	キャリア教育における職場体験・インターンシップの意義・実態・課題を検討する。
第19回	学校教育におけるキャリア教育③	キャリア教育における職業的レバンスの教育、職業教育のあり方を検討する。
第20回	学校教育におけるキャリア教育④	高校の教育困難校におけるキャリア支援・教育について検討する。
第21回	学校教育におけるキャリア教育⑤	新学習指導要領におけるキャリア教育について検討する。
第22回	専門学校におけるキャリア教育	ノンエリートのカリヤ形成について検討する。
第23回	大学におけるキャリア支援・教育①	ユニバーサル段階における大学教育について考察する。
第24回	大学におけるキャリア支援・教育②	現在の大学教育改革について検討する。
第25回	大学におけるキャリア支援・教育③	大学のキャリア支援・教育における外部連携について検討する。
第26回	学校制度外におけるキャリア支援①	地域若者サポートステーションについて検討する。
第27回	学校制度外におけるキャリア支援②	リスケリング政策について検討する。
第28回	振り返りとまとめ	授業（後半）の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題文献を読み、レジュメやレポートの作成を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

各回のテーマにかかわる文献は授業の中で指定・紹介する。

さしあたり以下をあげておく。

- ・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣
- ・児美川孝一郎（2023）『キャリア教育がわかる——実践をデザインするための〈基礎・基本〉』誠信書房
- ・下村英雄（2020）『社会正義のキャリア支援——個人の視点から個を取り巻く社会に広がる支援へ』図書文化

【成績評価の方法と基準】

出席と討論への参加：20％（積極性と共に討論内容に沿った的確性を評価する）

レジュメの作成と論点提示：40％（文献の論旨の把握・整理と的確な論点提示を評価）

レポートの作成40％（論点の重要性、論理構成的確さ、記述方法の適切さを評価）

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業を心がけたい。授業運営についての意見等は、いつでも受けつける。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンラインの方式により授業を実施する場合があります。対応する通信環境を整えておくこと。また、パワーポイントの使用を求める場合がある。

【担当教員の専門分野等】

【上西充子】

<専門領域>労働問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発

<研究テーマ>学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにかかわる支援の在り方

<関連する主要研究業績>

- ①『大学のキャリア支援』（編著、経営書院、2007年）
- ②「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010年）
- ③「採用選考における文系大学生の知的能力へのニーズと評価」『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.9、2012年3月
- ④「さまよえるキャリア教育」（全5回）『POSSE』22-26号（2014年3月・6月・9月・12月・2015年3月）
- ⑤『アルバイト・就職トラブルQ&A』（石田眞・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017年3月）
- ⑥「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて－」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018年2月）
- ⑦「呪いの言葉の解きかた」（晶文社、2019年）
- ⑧「働き方改革の国会審議を振り返って－『多様な働き方』の言葉に隠された争点」（横田伸子・脇田滋・和田肇『働き方改革』の達成と限界－日本と韓国の軌跡をみつめて）第1部第2章、関西学院大学出版会、2021年）
- ⑨「就活の労働問題」『都市問題』vol.113、2022年10月

【児美川孝一郎】

<専門領域>教育学（キャリア教育、青年期教育、教育政策）

<研究テーマ>青年期のキャリア形成とその支援に関する、実践・制度・政策についての研究

<主要研究業績>

- ①『権利としてのキャリア教育』（明石書店、2006年）
- ②「若者はなぜ「就職」でなくなったのか？」（日本図書センター、2012年）
- ③「これが論点！就職問題」（編著、日本図書センター、2013年）
- ④『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書、2013年）
- ⑤『まず教育論から変えよう』（太田次郎社エデュタス、2017年）
- ⑥「夢があふれる社会に希望はあるか」（ベスト新書、2018年）

- ⑦『高校教育の新しいかたち』（泉文堂、2019年）
- ⑧『自分のミライの見つけ方』（旬報社、2021年）
- ⑨『キャリア教育がわかる』（誠信書房、2023年）
- ⑩『新自由主義教育の40年』（青土社、2024年）
- ⑪『「教育改革」は何を改革してきたのか』（誠信書房、2025年）

【Outline (in English)】

【Course outline】

In light of the difficulties of young people's transition from school to work and the current state of young people's work styles, what is the role of career education and career support? We will reexamine the question from a step back perspective.

【Learning Objectives】

Students are expected to recognize the challenges facing career education and career support in their own fields, and to reconsider and reconstruct the framework for career education and career support.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read the assigned literature and prepare a resume and report.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution: 20 %

Resume preparation and presentation: 40%

Reports : 40 %

EDU500M1 – 1304（教育学 / Education 500）

教育社会学

筒井 美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校の専有物でもなければ、教員のみがなす行為でもない、社会の至るところで観察される「教育」という現象を「社会学する」。これは、どういう動作をやり抜くことなのだろうか？ このクラスでは、その基礎(広く社会科学の)を徹底的にマスターします。教育社会学のテーマとしては、”transition from school to work”を中心に取ります。実務の土俵と研究の土俵は、やはり違います。どうすれば研究の土俵に上がることができるのか。「論文の神様」はいつ降りてくるのか？」…そんな話でもできます。また、現修論生をゲストに招いて調査研究を検討し、"the making of"を体感します。

【到達目標】

ゴールは3つ。第1に、教育に関するさまざまな「常識」を問い直し、知的に新鮮な仮説を設定し、深く調べ尽くし、それらに論理性・説得力を持たせて言語化するという一連の動作ができるようになること。第2に、学術論文が如何に組み立てられているのか、それを頭と身体で習得すること。第3に、歪み・軋みが生じ大変な事態にある日本社会の、教育・福祉・労働をはじめとしたさまざまな領域を、一体どのように再創造していけばよいだろうか？ について脳ミソを絞り、自分自身のスタンスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

・zoomによるリアルタイム授業で実施します。

【授業の進め方：到達目標との関連】

第1のゴールについては、まずは筒井（2024, 2020）によって「大学院で学び研究する」動作に入るウォーミングアップをする。第2・第3のゴールについては、伊藤（2009）をはじめ、教育社会学、教育学、社会政策学などの論文を読み込んでいく。毎回全員が予習として「要約」and/or「コメント」を書いて学習支援システムに提出のうえ、オンラインの「授業に参加」する。毎回発表当番2人制とし、議論する。学生同士で議論したあと、教員が発展的解説をする。提出レジュメには学習支援システムによってもコメントを返す。**★詳細については学習支援システムの掲示板掲載の文書を参照のこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「他己」紹介／このクラスの進み方／発表当番決め
2	学術論文とは何か	「学術論文7つの構成要素」（筒井オリジナル）を理解する
3	筒井（2024）	社会人人生が陥りやすい落とし穴を自覚する。
4	筒井（2020）	社会科学の礎石的概念を知る
5	伊藤（2009）の要約	要約を通した「学術論文7つの構成要素」の習得
6	伊藤（2009）の議論	質的研究のイメージをつかむ
7	吉田（2007）の要約	要約を通した「学術論文7つの構成要素」の徹底
8	吉田（2007）の議論	依拠する理論的枠組みは何か
9	筒井（2022）の議論①	分析枠組みの設定とは何をすることか：相談支援を題材に
10	筒井（2022）の議論②	先行研究の検討とは何をすることか：相談支援を題材に
11	筒井(2024)①	「学校から職業への移行」研究の理論的枠組み
12	筒井(2024)②	「学校から職業への移行」研究の理論的ホット 이슈
13	Clarke（2017）の筒井抜粋①	先行研究検討をとおした概念枠組みの再構築：新規大卒者のエンプロイアビリティを題材に
14	Clarke（2017）の筒井抜粋②	先行研究検討をとおした概念枠組みの再構築について議論する
15	インタビュー調査・超入門①	「やっぱりそうでした」に終始しない聞き取りには、いかなる認識転換が必要か
16	インタビュー調査・超入門②	「やっぱりそうでした」に終始しない聞き取りのインタビュー項目とは
17	質問紙調査・超入門①	仮説とその検証方法を決めるに質問票を作ってもドン詰まるだけ

18	質問紙調査・超入門②	記述と説明の違い、検証に値する仮説とは
19	筒井（2016）の要約	歴史的（近過去）研究のイメージをつかむ
20	筒井（2016）の解説	個人の歴史と社会の歴史の相互関係をいかに描き出すか
21	筒井（2016）の草稿を読んでの議論①	論文は一筆書きでは書けないことを理解する
22	筒井（2016）の草稿を読んでの議論②	査読コメントの活かし方を学ぶ
23	修論生の修論進捗報告とその検討①	修論進捗報告
24	修論生の修論進捗報告とその検討②	自由闊達に議論する
25	修士論文構想発表の練習①	< 学術論文7つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表。 問題関心を冒頭からダラダラ書かない
26	修士論文構想発表の練習②	< 学術論文7つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表。 課題説明の重要性のなかに問題関心を入れる
27	修士論文構想発表の練習③	< 学術論文7つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表。 先行研究の検討は、批判or応用で見極める
28	修士論文構想発表の練習④	< 学術論文7つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表。 データと方法は具体的に書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回全員が、要約 and/or コメントを書く、あるいは課題をやって学習支援システムの「授業掲示板」に表示された各回の箇所に提出すること。
25～28は修士論文構想発表の練習。現時点で持てる材料でよいから、挑戦してみる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・伊藤秀樹 2009「不登校経験者への登校支援とその課題」『教育社会学研究』第84集：pp.207-225.
・筒井美紀（2024）「就労困難者支援と中小企業支援」、田中・遠藤・梅崎編著『キャリアスタディーズ』日本能率協会マネジメントセンター
・筒井美紀(2022)『「豊中市来談者調査」の狙いと分析枠組み』『社会政策』14(2), pp.47-57.
・筒井美紀(2020)「暗黙知化されている社会科学の概念的礎石についての解説」『生涯学習とキャリアデザイン』18(1): 31-34.
・筒井美紀(2016)「大阪府における地域雇用政策の生成に関する歴史的文脈の分析――就労困難者支援の体系化に対する総評労働運動の影響――」『日本労働社会学会年報』第27号 pp.107-131.
・吉田美穂（2007）『「お世話モード」と『ぶつからない』統制システムーアカウンタビリティを背景とした教育困難校の生徒指導ー』『教育社会学研究』第81集：pp.89-109.
・Clarke, M. (2018). “Rethinking graduate employability: The role of capital, individual attributes and context.” Studies in higher education, 43(11), 1923-1937.
＊その他の文献含む全文献は学習支援システム「教材」にアップしています。

【参考書】

筒井美紀(2025)「アメリカにおける就労支援－制度化研究と事例研究から得られる含意と論点－」 https://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2025/07/report209_all.pdf

【成績評価の方法と基準】

・予習課題の出来具合：40％（未提出の場合は減点）
・報告当番：20％（社会的思考・社会学の諸概念の理解とコメントの質）
・平常点：30％（発言：質…社会的思考、社会学の諸概念の理解）
・修士論文構想発表：10％

【学生の意見等からの気づき】

上記の予習は多少しんどいと思いますが、毎回必ずコメントを入れて当日に返却できるよう努めています。

【その他の重要事項】

「知識や理論を増やして、あとはそれを応用すれば調査ができ論文が書ける」という、多くの大学院生が陥る誤解の払拭に、まず全力を注ぎます。そのため「書いては議論し、議論しては書く」ことを重視しています。かくして、授業は極めて実践的です。

【担当教員の専攻分野等】

<専門領域> 教育社会学、労働社会学
<研究テーマ> 自治体や国、NPOの就労支援、学校から職業への移行、労働教育
<主要研究業績>
・「大卒就職・大卒採用――制度・構造を読み解く」駒川智子・金井郁編(2023)『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社, pp.19-32.
・「大阪府「定着支援事業」の生成：政策形成過程は政策内容にどう影響したか」『社会政策』15(2).
・遠藤野ゆり・筒井美紀(2023)『まなぶことの歩みと成り立ちーー教育の原理的探究』法政大学出版局

- ・Tsutsui, Miki and Shuhei Naka (2022) "The Challenges of activation policies in Japan and their local dimension" in Yuri Kazepov et al eds., Handbook of Urban Social Policies. International perspectives on multilevel governance and local welfare. Elgar., pp.429-446
- ・筒井美紀(2022)「労働需要側に向けた積極的労働市場政策に関する研究の欧州における展開」『社会政策』13(3) pp.150-157.
- ・筒井美紀(2021)「加賀ワークチャレンジ事業（加賀WCP）の概要と分析枠組み」『社会政策』13(1) pp.63-73.
- ・筒井美紀(2020)「『つながり』を創る学校の機能－『人的資本アプローチ』と『地域内蔵アプローチ』」『社会政策』12(1), pp.55-67.
- ・筒井美紀(2018)「新規高卒採用に関する企業の認知と行為－定点観測的インタビューの分析から」JILPT編『新規高卒就職の現在』
- ・筒井美紀(2017)「『変容する産業・労働と教育の結びつき』へのアプローチ」『教育社会学のフロンティア1 学問としての展望と課題』日本教育社会学会編／本田由紀・中村高康責任編集，岩波書店，pp.275-294.
- ・筒井美紀(2016)『殻を突き破るキャリアデザイン－就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣
- ・筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著(2014)『就労支援を問い直す－自治体と地域の取り組み』勁草書房
- ・遠藤公嗣・筒井美紀・山崎憲(2012)『仕事と暮らしを取りもどす－社会正義のアメリカ』岩波書店。(第2&3章執筆)
- ・J.フィッツジェラルド著、筒井・阿部・居郷訳(2008)『キャリアラダーとは何か』勁草書房。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class is about What it means to mean "do the sociology of education"

Learning Objectives

Students are to master the basic skills of the sociology of education and the main theme is "transition from school to work".

Learning activities outside of classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and written some comments.

Grading Criteria /Policy

Grading is based on the assignment 40%, presentation 20%, in-class contribution 30%, and proposal of master thesis 10%.

EDU500M1 - 1305 (教育学 / Education 500)		
生涯学習論		
久井 英輔、山梨 あや		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 (授業の概要) この授業では、生涯学習、社会教育を捉える上で重要な基礎知識や視点について、文献講読とディスカッションを通じて検討する。 (授業の意義と目的) 生涯学習、社会教育に関わる理念、制度、実践やその歴史的・社会的背景について適切に把握できる力を養うことを目的とする。		
【到達目標】 生涯学習、社会教育に関する理念、制度、実践に関する正確な知識の獲得、及び、それらの歴史的、社会的背景に関する適切な理解、そしてこれらを踏まえて学生各自の研究に活用できる生涯学習・社会教育の視点を獲得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【主な授業方法】 S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 本授業は、前半（第1回～第14回）を久井が、後半（第15回～第28回）を山梨が担当する。 最初のガイダンス的な授業以外は、文献講読あるいは映像資料などの視聴とそれを踏まえたディスカッションとする。文献講読について、発表を担当する受講者は要約とコメント（ディスカッションに資する論点の提示）を中心としたレジュメを作成するものとする。ただし受講人数によっては、各回において文献を踏まえた簡潔なコメントのみを各受講者が作成することとする。 学生へのフィードバックは、毎回のディスカッションの中で随時行うこととする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	授業内容説明と問題関心の共有	授業の進め方の詳細について説明するとともに、生涯学習・社会教育に関する教員、受講者の問題関心を共有する。
第2回	生涯学習・社会教育に関する基本概念	生涯学習、社会教育をめぐる諸概念の基礎知識について確認する。
第3回	日本における社会教育の歴史と現状①	生涯学習、社会教育をめぐる制度について、文献講読を基に概観する。
第4回	日本における社会教育の歴史と現状②	社会教育施設経営の現状と課題について、文献講読を基に概観する。
第5回	日本における社会教育の歴史と現状③	社会教育と地域社会の関係について、文献講読を基に概観する。
第6回	日本における社会教育の歴史と現状④	社会教育主事・社会教育士に関する制度と実態について、文献講読を基に検討する。
第7回	成人学習者を捉える理論①	ノールズのアンドラゴジー論、自己主導型学習の理念について文献講読を基に検討する。
第8回	成人学習者を捉える理論②	フレイレの「意識化」を中心とする教育理念について、文献講読を基に検討する。
第9回	成人学習者を捉える理論③	メジローらの変容的学習理論について、文献講読を基に検討する。
第10回	成人学習者を捉える理論④	レイヴ、ウェンガーの状況的学習論について、文献講読を基に検討する。
第11回	成人学習者を捉える理論⑤	エンゲストロームの拡張的学習の理論について、文献講読を基に検討する。
第12回	成人学習者を捉える理論⑥	センゲの「学習する組織」論について、文献講読を基に検討する。
第13回	中間考察①	ここまでの講読文献やディスカッションと関連付けながら、各自が自身の研究について簡潔に報告する。、論点提示する。前回における各自の報告を基に、共通する論点等について討論を行う。
第14回	中間考察②	大阪労働学校に関する文献講読を基に、職業を持つ人々と社会教育の関連について検討する。
第15回	社会教育と職業・労働①	戦後の紡績工場における級方運動に関する文献講読を基に、労働しつつ学ぶことの意義について検討する。
第16回	社会教育と職業・労働②	ジェルビの「抑圧と解放の弁証法」について、文献講読を基に検討する。
第17回	成人学習を捉える理論⑦	ジェルビの文献講読を基に、市民社会育成を想定した生涯学習論について検討する。
第18回	成人学習を捉える理論⑦	社会的不利益層に対する学習支援に関する理論について、文献講読を基に検討する。
第19回	社会的不利益層に対する学習支援①	社会的不利益層に対する学習支援に関する実践について、ドキュメンタリー映画を視聴の上、ディスカッションを行う。
第20回	社会的不利益層に対する学習支援②	ここまでの講読文献やディスカッションと関連付けながら、各自が自身の研究について簡潔に報告する。
第21回	中間考察③	前回における各自の報告を基に、共通する論点等について討論を行う。
第22回	中間考察④	第二次世界大戦前の日本の小学校を事例に、学校が地域社会、家庭とどのように結びつき、社会教育的活動を展開していたのかを検討する。
第23回	社会教育と地域社会・学校①	第二次世界大戦後のPTA活動や母親を中心とした学習活動の事例を検討し、地域社会における学校の社会教育上の役割について検討する。
第24回	社会教育と地域社会・学校②	海外における生涯学習の形態について検討し、その可能性と問題点について検討する。
第25回	海外における生涯学習とその問題①	海外における生涯学習・社会教育施設の運営をめぐるドキュメンタリーを視聴し、各自論点を提示してディスカッションする。
第26回	海外における生涯学習とその問題②	全員が今回の授業を振り返り、簡単なレジュメを作成して発表・討論を行う。
第27回	授業の振り返り①	全員が今回の授業を振り返り、簡単なレジュメを作成して発表・討論を行う。
第28回	授業の振り返り②	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。		

- ・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること。ただし、受講者数が少ない場合は各回の発表担当者を設けず、各受講者が文献の内容を踏まえて簡潔なコメントを用意しておくこと。
- ・各回の授業後、討論の内容と前回までの文献との関係を踏まえてつ、文献をもう一度読み直すこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読文献は多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスタコピーまたはPDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

講読文献等に関するコメントの発表と討論への貢献度 80 %
 学生自身の研究と結びつけた発表、振り返りの発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業は昨年度までと同様、基本的に対面形式で進めるが、受講生の状況や意向などを考慮し、場合によっては部分的にオンライン形式あるいはハイフレックス形式での授業実施も視野に入れることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC

【担当教員の専門分野等】

久井英輔: 社会教育学、生涯学習論、教育史

担当教員のページのURL :

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/112/00111129/profile.html>

山梨あや: 社会教育学、生涯学習論、教育史

担当教員のページのURL :

https://k-ris.keio.ac.jp/html/100000295_ja.html

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The aim of this course is to provide basic knowledge and viewpoints regarding lifelong learning and social education through text reading, presentations, and discussion.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to help students to acquire ability to grasp the thoughts, systems, practices of lifelong learning and social education and to understand their historical and social context appropriately.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Final grade will be calculated according to the following process:

Presentations of comments on assigned papers and contribution to discussion (80%),

Presentations linking to students' own research, and presentations based on reflection on this course (20%).

MAN500M1 - 1401（経営学 / Management 500）		
キャリア開発論		
浅野 浩美		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 経済社会や企業の雇用システムが構造的に変化する中で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察する。キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学ぶ。		
【到達目標】 授業の到達目標は以下のとおり。 ・ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解する。 ・個人のビジネスキャリア開発が、企業の人事管理や社会構造と関連していることについて視点をもつ。 ・関連する文献、論文の講読を通じて、自身の問題意識を明確にし、それを主張することができる。 ・問題意識をもとに研究を進めていくことができるよう、研究方法論について一定の知識を得る。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 ・本授業は、オンライン授業（双方向リアルタイム配信）を活用することを予定しています。シラバスでは、第7回、第14回を対面と記載していますが、対面の回の回数と箇所については、初回授業で受講生と相談のうえ、決定したいと考えています。 ・授業は、講義形式（問題提起や理論等の概説）と、輪読、勤務先等の事例報告、ディスカッションを中心とする参加型形式を組み合わせたたちで行います。 ・キャリア開発に関する基礎や変化の動向、個人が行うキャリア開発、企業や行政が行うキャリア開発に対する支援について取り上げます。 ・前職において携わった（行政が行うキャリア開発支援策の代表的なもののひとつである）国のキャリアコンサルティング施策を取り上げ、その背景や、企画立案を行い、実施していくプロセスを理解したうえで、問題意識を持った分野に関して今後のキャリア開発のあり方について考えます。 ・質問やリアクションペーパーなどについては、授業時間内で解説・講評の時間を設ける ・授業の内容は、受講者の状況に応じて変更することがありますので、予めご了承ください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業について説明するとともに、受講者の問題意識についてのディスカッションなどを行う。
第2回	キャリア開発概論	キャリア開発についての概論についての講義などを行う。
第3回	キャリア開発にかかわる理論的な枠組み①	キャリア開発をとらえる視点、理論的な枠組、キャリア開発の主体について、講義を行う。
第4回	キャリア開発にかかわる理論的な枠組み②	キャリア開発をとらえる視点、理論的な枠組、キャリア開発の主体について、検討を行う。
第5回	キャリア開発の主体①	キャリア開発の主体について、講義を行い、問題提起をする。
第6回	キャリア開発の主体②	キャリア開発の主体について、データなどをもとにディスカッションをする。
第7回	経済環境の変化とキャリア開発①	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発、キャリア形成のモデルやそのあり方がどのように変化したのかについて、講義を行う。
第8回	経済環境の変化とキャリア開発②	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発、キャリア形成のモデルやそのあり方がどのように変化したのかについて、検討を行う。
第9回	キャリア自律を考える①	このところ強く求められるようになってきた「キャリア自律」についてどう考えるべきかについて検討する。
第10回	キャリア自律を考える②	このところ強く求められるようになってきた「キャリア自律」についてどう考えるべきかについて考察する。
第11回	キャリア自律を探究する①	「キャリア自律」について、どのようにして捉え、どのようにして探究するかについて検討する。
第12回	キャリア自律を探究する②	「キャリア自律」について、どのようにして捉え、どのようにして探究するかについて考察する。
第13回	キャリア開発と国の施策①	キャリア開発と関係の深い国の職業能力開発施策を取り上げ、その背景や、企画立案を行い、実施していくプロセスについて講義を行う。
第14回	キャリア開発と国の施策②	国の職業能力開発施策の方向性を踏まえ、キャリア開発を行ううえで考えるべきことについてディスカッションをする。
第15回	企業が行うキャリア開発支援①	企業が行うキャリア開発支援策について、制度面を押さえたうえで検討する。
第16回	企業が行うキャリア開発支援②	企業が行うキャリア開発支援策について、ディスカッションする。
第17回	キャリア開発とキャリアコンサルティング①	企業が行うキャリア開発支援策の中で、キャリアコンサルティングが果たす役割について考察する。
第18回	キャリア開発とキャリアコンサルティング②	企業が行うキャリア開発支援策のうち、キャリアコンサルティングが果たす役割についてディスカッションをする。
第19回	女性のキャリア開発①	男女のキャリア格差の実態などについて講義を行うとともに、報告をしてもらう。
第20回	女性のキャリア開発②	男女のキャリア格差の実態などについての講義および報告をもとに、女性のキャリア開発の課題について検討する。
第21回	企業のシニア活用とキャリア開発①	70歳までの就業確保措置が講じられる中でシニアのキャリア開発の現状と課題について講義を行う。
第22回	企業のシニア活用とキャリア開発②	70歳までの就業確保措置が講じられる中でシニアのキャリア開発の現状と課題について論文をもとにディスカッションを行う。
第23回	事例で考えるシニアのキャリア開発①	シニアのキャリア開発の現状と課題について、実践報告などをもとに検討する。
第24回	事例で考えるシニアのキャリア開発②	シニアのキャリア開発の現状と課題について、実践報告などをもとにディスカッションをする。
第25回	ダイバーシティ経営とキャリア開発①	ダイバーシティ経営を進める企業が増える中で、多様な人材のキャリア開発とパフォーマンスについて考察する。
第26回	ダイバーシティ経営とキャリア開発②	ダイバーシティ経営を進める企業が増える中で、多様な人材のキャリア開発とパフォーマンスについてディスカッションする。
第27回	総括①	講義のまとめ。問題意識に照らして、今後のキャリア開発のあり方について検討した結果について、報告してもらう。
第28回	総括②	講義のまとめ。今後のキャリア開発のあり方について検討し、発表したことをもとにディスカッションを行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。 毎回、授業前に、文献を読むなど、準備をしてもらうことを想定しています。レポート課題を予定しています。		
【テキスト（教科書）】 テキストは特に指定しません。テーマに応じて、資料を配付します。 文献講読の文献については、授業で示します。		
【参考書】 武石恵美子（2023）『キャリア開発論〈第2版〉：自律性と多様性に向き合う』中央経済社。 渡部昌平・浅野浩美・立野了嗣・小澤康司・下村英雄・三村隆男（2024）『日本キャリアカウンセリング史 正しい理解と実践のために』共著、実業之日本社。 浅野浩美（2022）『キャリアコンサルタント・人事パーソンのための キャリアコンサルティング 組織で働く人のキャリア形成を支援する』労務行政、ほか。 適宜紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 以下を原則とします。 ・平常点40％：出席のほか、ディスカッションへの参加も含みます。 ・報告20％：報告の内容、レジュメの準備、質問への対応などを評価します。 ・レポート40％：未提出や期限を過ぎる提出は評価対象外となりますので注意してください。		
【学生の意見等からの気づき】 学生の意見等を踏まえ、修士論文の課題設定や執筆のための視点が提供できるようにしたいと考えています。		

学生からの事例紹介、プレゼンテーション、話題提供をベースにしたディスカッションを積極的に取り入れていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（双方向リアルタイム配信）を活用することを予定しているため、インターネットに接続し、会議ツールを使用することのできるパソコンが必要です。
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用することを予定しています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞人的資源管理論、キャリア論、労働政策
＜研究テーマ＞高齢者雇用、キャリアコンサルティング、キャリア支援施策、人材開発、人的資本情報開示、女性労働
＜主要研究業績＞

論文等

・「定年後の就業継続プロセスに関する考察—ブリッジジョブの視点から—」(『キャリアデザイン研究』 Vol. 21, 122-133 2025年) .

・人的資本の測定・開示と企業経営へどのように取り組み、活かそうとしているのか～（共著。経営教育研究 28(1,2) 63-73 2025年） .

・Career Diversity in the IoT/AI Era: Diversity as a Path to Inclusive Workforce Development (Journal of Strategic Management Studies 17(1) 3-14 2025).

・テキストマイニングによる求人企業のコメントからの採否決定要因の抽出(共著。経営情報学会誌 26(4) 1-20 2018年)

・「仕事やキャリアに関する「悩み」への対処に関する検討 — 「やり過ぎ」と相談の効果に着目して—」(『キャリアデザイン研究』 20, 48-62 2024年) .

・「企業内キャリアコンサルティングの役割及び機能 ～既存自由記述調査・インタビュー調査結果の再分析から～」（日本キャリア・カウンセリング学会 第26 回大会 論文集 64-67 2021年）(学会奨励賞)

・高学歴女性の昇進と ライフ・キャリアに関する一考察 — 社会科学系A 大学の調査結果から— キャリアデザイン研究 17 87-95 2021年)

報告書等

・『65歳超雇用推進マニュアル(全体版)』(高齢・障害・求職者支援機構、2017年)

・『65歳超雇用推進事例集』(高齢・障害・求職者支援機構、2018年、2019年)

・『45歳からのキャリア研修』(高齢・障害・求職者雇用支援機構、2019年)

書籍

・『65歳定年に向けた人事処遇制度の見直し実務(労政時報選書)』(共著) 労務行政研究所 労務行政、2019年.

・『キャリアコンサルタント・人事パーソンのための キャリアコンサルティング 組織で働く人のキャリア形成を支援する』 労務行政、2022年.

・『日本キャリアカウンセリング史 正しい理解と実践のために』(共著)、実業之日本社.

専門誌記事

・「生涯現役を実現するためのキャリア開発支援」(連載：第1回～第12回)、『エルダー』、39(5)-40(4)、労働調査会、2017-2018年.

・「シニアのキャリアを理解する」(連載：第1回～第6回) (『エルダー』、44(1)-44(6)、労働調査会、2021年)

・「キャリアコンサルティング—押さえておきたい関連情報」(連載：第1回～第29回 (連載中))『WEB労政時報』、2022年～.

ほか

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the theoretical framework of career development, students will learn perspectives and methodologies for understanding the current status and challenges of career development.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are as follows:

・To understand the social structure behind business career development.

・To gain a perspective on how individual business career development is related to corporate human resource management and social structure.

・To be able to identify and discuss their own issues by reading relevant literature and articles.

・To acquire a certain level of knowledge about research methodology.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Report in class: 20%、Other in class contribution: 40%.

MAN500M1 - 1402 (経営学 / Management 500)

人的資源管理論

佐藤 厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 主題を日本企業の人的資源管理の現状と課題とします。
- 2 人的資源管理とは何かを理解します。
- 3 人的資源管理とキャリア形成との接点・インターフェイスに浮かび上がる重要な論点について考察します。

【到達目標】

- 1 受講者が人的資源管理の基礎知識を習得し、さらに実務課題へ応用することのできる力を身につけます。
- 2 人的資源管理論とキャリア論に関する文献読解及び討論を通じて、修士論文作成に必要な文献を批判的に読解する力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義の主題である人的資源管理の現状と課題を理解するには以下の三つの課題が必要だと思います。第1に、人的資源管理とは何かの基礎を学ぶ必要があるでしょう（第1の課題）。だが、企業を取り巻く需給両面での環境変化が著しい。そうした状況下では、第2に需要サイドの変化、及び第3に供給サイドの変化の両面から、人的資源管理を捉え直す作業が必要となるでしょう。このうち第2については、経営戦略や経営組織と人的資源管理作業との関連把握が要となり、その際の鍵概念が「仕事管理」という概念です（第2の課題）。また第3については、就業ニーズの多様化をどう受け止めるかが要となります。その際の鍵概念が「キャリアの多様化」であります（第3の課題）。

各回の授業では、テーマに関連した文献についてのレポート報告及びそれに関する論点についての討論とフィードバックを行います。

なお、以下の授業計画はあくまで計画であり、若干の修正はありますのでご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方・授業で取り上げる参考文献紹介、レポート作成要領などについての解説
第2回	講義の進め方・参考文献についての討論	講義の進め方・参考文献についての参加者の経験を踏まえた意見交換
第3回	人的資源管理の目的と機能	人的資源管理の概念と機能、人事部の役割に関する解説
第4回	人的資源管理の目的と機能に関する討論	人的資源管理の概念と機能、人事部の役割に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第5回	経営戦略・組織と人的資源管理	経営戦略－組織構造－人的資源管理の関連についての解説
第6回	経営戦略・組織と人的資源管理に関する討論	経営戦略－組織構造－人的資源管理の関連に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第7回	雇用管理（1）	採用と退職の管理に関する解説
第8回	雇用管理（1）に関する討論	採用と退職の管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論

第9回	雇用管理（2）	異動と昇進の管理に関する解説
第10回	雇用管理（2）に関する討論	異動と昇進の管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第11回	人事制度	社員区分、社員各付け、職能資格制度についての解説
第12回	人事制度についての討論	社員区分、社員各付け、職能資格制度に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第13回	人事評価・賃金管理	人事評価・賃金管理に関する解説
第14回	人事評価・賃金管理に関する討論	人事評価・賃金管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第15回	労働時間管理	労働時間の概念、管理の在り方と課題
第16回	労働時間管理に関する討論	労働時間の概念、管理の在り方と課題に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第17回	キャリア管理とその支援（1）	キャリアに関わる主要概念（キャリア・アンカー、バウンダリーレスキャリア、心理的契約など）に関する解説
第18回	キャリア管理とその支援（1）に関する討論	キャリアに関わる主要概念（キャリア・アンカー、バウンダリーレスキャリア、心理的契約など）に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第19回	キャリア管理とその支援（2）	キャリア環境の変化と課題（伝統的キャリアと新しいキャリア）に関する解説
第20回	キャリア管理とその支援（2）に関する討論	キャリア環境の変化と課題（伝統的キャリアと新しいキャリア）に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第21回	能力開発と教育訓練	企業内教育訓練の体系、OJTとOff-JT及び自己啓発、長期の仕事経験としてのキャリア、HRD（人材開発）概念の解説
第22回	能力開発と教育訓練	企業内教育訓練の体系、OJTとOff-JT及び自己啓発、長期の仕事経験としてのキャリア、HRD（人材開発）概念に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第23回	非典型雇用及び外部人材	非典型雇用の概念と現状、活用に関わる課題の解説
第24回	非典型雇用及び外部人材に関する討論	非典型雇用の概念と現状、活用に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第25回	労働組合と労使関係	労働組合の組織と機能、労使関係の個別化、未組織企業の組織化に関する解説
第26回	労働組合と労使関係に関する討論	労働組合の組織と機能、労使関係の個別化、未組織企業の組織化に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第27回	人的資源管理のフロンティア	仕事と生活の調和と人事管理の解説
第28回	人的資源管理のフロンティアに関する討論	仕事と生活の調和と人事管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義は講義者による講義をベースにしますが、その内容理解は、あくまで参加者による主体的な論点の提起や討論によって初めて深めることが可能となります。毎回の講義テーマに関わる資料、データ、事例などを適宜収集しておくようにしてください。授業時間外の学習（目安時間）は4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

- ①テキスト：今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(第2版)』日本経済新聞社
- ②サブテキスト：佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂、2011年
- ③佐藤 厚『組織のなかで人を育てる――企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣、2016年
- ④佐藤 厚『日本の人材育成とキャリア形成：日英独比較』中央経済社、2022年
- ⑤佐藤 厚・田中秀樹『人材開発とキャリア自律』中央経済社、2026年

【参考書】

- ①佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル 新しい人事労務管理』有斐閣
- ②佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣
- ③中村圭介・石田光男編『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社
- ④佐藤厚編著『業績管理の変容と人事管理』ミネルヴァ書房(2007年)
- ⑤『日本労働研究雑誌』のバックナンバー(授業時に指示します)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献を50、文献もしくは課題レポートを50とします(あくまで大まかな目安です)。

具体的には、①指定文献(授業主題に関連した研究論文や事例などです)の報告と討論、および②課題レポート(頻度は3回程度)の提出と討論が重視されます

【学生の意見等からの気づき】

- 1 受講者との意見交換や受講者間での討論時間を確保する。
- 2 毎回取り上げて読む文献読解の趣旨を明確にする。
- 3 演習問題等を例示して、授業到達目標を明確にする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>産業社会学・人的資源管理論

<研究テーマ>ホワイトカラーの仕事管理・人事管理及びキャリア形成

<主要研究業績>

- ①佐藤 厚『ホワイトカラーの世界――仕事とキャリアのスペクトラム』日本労働研究機構(現 独立行政法人 労働政策研究・研修機構)、2001年
- ②佐藤 厚「雇用政策と人的資源管理政策」同志社大学大学院総合政策科学研究科編『総合政策科学入門』成文堂、2004年
- ③佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣、2004年
- ④佐藤 厚・佐野嘉秀「『成果主義』先進企業の変革――電機メーカー」中村圭介・石田光男編『ホワイトカラーの仕事と管理』東洋経済新報社、2005年
- ⑤佐藤 厚編著『業績管理の変容と人事管理』ミネルヴァ書房、2007年
- ⑥佐藤 厚「仕事管理と労働時間――長労働時間発生メカニズム」『日本労働研究雑誌』2008年6月
- ⑦佐藤 厚「人的資源管理論とキャリア論」『生涯学習とキャリアデザイン2008年度法政大学キャリアデザイン学会紀要』Vol.6 2009年
- ⑧佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂、2011年
- ⑨佐藤 厚「企業における人材育成の現状と課題」社会政策学会編『社会政策』2012年第3巻第3号
- ⑩佐藤 厚「中小機械・金属関連産業における能力開発」『日本労働研究雑誌』2012年1月
- ⑪佐藤 厚「マネージャーの仕事とキャリア」『生涯学習とキャリアデザイン』vol.12,2014年
- ⑫佐藤 厚「人材育成とキャリア形成」『日本労務学会誌』第15巻第1号2014年
- ⑬佐藤 厚「キャリアデザイン研究の成果と課題」日本キャリアデザイン学会編『日本キャリアデザイン学会10周年記念誌』2014年
- ⑭「企業コミュニティとキャリア形成、人材育成」『生涯学習とキャリアデザイン』vol.14,2016年

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

- 1 Main subject of this class is the current status and issues of human resource management of Japanese companies.
- 2 First purpose of this class is to understand what human resource management is.
- 3 Second purpose of this class is to consider the important issues that emerge from interfaces between human resource management and career development.

【Learning Objectives】

1 Students will acquire the basic knowledge of human resource management and acquire the ability to apply it to practical tasks.

2. Through reading and discussing literature on human resource management theory and career theory, we will develop the ability to critically read the literature necessary for master's thesis writing.

【Learning activities outside of classroom】

Lectures are based on lectures by lecturers, but their understanding of the content can only be deepened by the participants raising and discussing proactive issues. Please collect materials, data, examples, etc. related to each lecture theme as appropriate.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) required 4 hours or more.

【Grading Criteria/Policy】

The contribution to the class is 50, and the literature or assignment report is 50 (just a rough guide).

Specifically, the emphasis is on (1) reporting and discussion of designated documents (research papers and cases related to the subject of the lesson), and (2) submission and discussion of assignment reports (frequency is about 3 times).

MAN500M1 - 1403 (経営学 / Management 500)

経営組織マネジメント論

古田 克利

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：

本授業では、経営組織マネジメント論とりわけ組織行動論の主なトピックを取り上げ、経営組織・人材のマネジメントに関する基礎的な概念や理論を学びます。

目的：

人材マネジメントやキャリア開発について、経営組織マネジメントの視点から実証研究を行うための、基礎的な理論的知識・思考力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・個人の特性・心理・態度・行動に関する基礎的な概念・理論を説明できる。
- ・集団の行動に関する基礎的な概念・理論を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面を基本とし、金曜日の6・7限に行います。

実施形態は下記の通りです。

- ・6限：テキスト・提出課題の内容に関するレポート発表
- ・7限：テキスト・提出課題のレポート発表に基づく講義・質疑・ディスカッションまたはグループ討議

授業内容に対する質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。

授業終了後に寄せられた質問に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と目的、到達目標、学習方法
第2回	学術研究の基礎	経営組織・組織行動に関する学術研究の基本的な考え方・方法
第3回	組織構造とデザイン（1）	組織構造とデザインに関する概念について発表する
第4回	組織構造とデザイン（2）	組織構造とデザインに関する概念についてディスカッションする
第5回	マネジャーの役割（1）	マネジャーの役割について発表する
第6回	マネジャーの役割（2）	マネジャーの役割についてディスカッションする
第7回	経営組織マネジメントの実践（1）	実際の組織を取り上げ、経営組織マネジメントの実践について発表する
第8回	経営組織マネジメントの実践（2）	実際の組織を取り上げ、経営組織マネジメントの実践についてディスカッションする
第9回	経営組織イノベーション（1）	経営組織イノベーションのフレームワークについて発表する
第10回	経営組織イノベーション（2）	経営組織イノベーションのフレームワークについてディスカッションする
第11回	人材マネジメント（1）	人材マネジメントのフレームワークについて発表する
第12回	人材マネジメント（2）	人材マネジメントのフレームワークについてディスカッションする
第13回	経営組織マネジメントの実践（3）	経営組織マネジメントの実践について発表する
第14回	経営組織マネジメントの実践（4）	実際の組織を取り上げ、経営組織マネジメントの実践についてディスカッションする
第15回	組織行動論研究（1）	組織行動論に関する研究の進め方について発表する
第16回	組織行動論研究（2）	組織行動論に関する研究の進め方についてディスカッションする
第17回	ストレス研究（1）	ストレス研究についてレビューする
第18回	ストレス研究（2）	ストレス研究についてディスカッションする
第19回	エンゲージメント研究（1）	エンゲージメント研究について発表する

第20回	エンゲージメント研究（2）	エンゲージメント研究についてディスカッションする
第21回	時間的展望研究（1）	時間的展望研究について発表する
第22回	時間的展望研究（2）	時間的展望研究についてディスカッションする
第23回	モチベーション研究（1）	モチベーション研究について発表する
第24回	モチベーション研究（2）	モチベーション研究についてディスカッションする
第25回	組織社会化研究（1）	組織社会化研究について発表する
第26回	組織社会化研究（2）	組織社会化研究についてディスカッションする
第27回	仕事の自己未来像（1）	仕事の自己未来像について発表する
第28回	仕事の自己未来像（2）	仕事の自己未来像についてディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、テキストを読み、考察をまとめたレポート（A4、1～2枚）を授業の前日までに提出
- ・各回の授業内容の復習
- ・上記2点の準備学習は3時間、授業後の復習時間は1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜配布します

【参考書】

適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

小レポートとディスカッション 60 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

8週目以降は研究論文の執筆を視野に入れた授業内容とします

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。

1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of organizational behavior, focusing on individual and group levels.

Learning objectives

1. Can explain constructs and theories of individuals' attribute, attitudes, and behavior
2. Can explain constructs and theories of group behavior

Learning activities outside of classroom

1. Read the textbook and write up short essays.
2. The standard time for preparatory study for this class is 3 hours.
3. The standard time for review for this class is 1 hour.

Grading Criteria

1. Short essays: 60%
2. Final essay: 40%

MAN500M1 - 1404 (経営学 / Management 500)

キャリアと雇用の経済学

梅崎 修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学と言うと、市場の分析であると考えられる方も多いと思います。もちろん、労働市場の分析はキャリアや雇用にとって重要なテーマですが、それ以外に組織マネジメントや人事に対しても経済学は様々な研究蓄積があります。最近では、行動経済学など心理学と境界領域の経済学、また制度派経済学にはインタビューを多用する研究の伝統があり、産業・労働社会学や人的資源管理論とも学際的な研究を続けてきました。この授業では、大きく前半と後半に分けて授業をします。前半は、受講生の関心テーマを考慮しつつ、人的資本、情報の非対称性、インセンティブなどの理論・概念を学びます。後半では、労働・職場調査の様々な方法（質的、量的調査）について講義します。人事管理と組織デザインの具体的事例を知るだけでなく、それらを分析できる思考を身に付け、論文を書く能力を身につけることを目標としています。論理的思考方法と多様な調査方法の習得は、実際のビジネス意思決定にも役立つでしょう。

【到達目標】

理論と調査・分析手法を使いこなせること、具体的には、第一に、組織や人事制度、組織内行動の解釈をインセンティブ理論や人的資本理論などによって説明可能になることなどを目標とする。第二に、修士論文作成のために必要な計量分析やインタビュー調査などの実証方法も「分析結果を読む」ことはもちろんですが、「自分で分析できる」までになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は、人事経済学（Personnel Economics）の理論と調査事例を解説します。はじめに理論と概念を解説した後には、具体的な企業事例を紹介し、参加者と議論します。理論解説→分析事例の紹介→議論という流れの中で、論理的思考方法を学びます。後半は、『労働職場調査ガイドブック－多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社,2019）をサブテキストにして、統計分析から質的調査までを実践的に学びます。なお、授業は2回連続で行い、半期で終了します。課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業時間内とオフィスアワーを通じて行う予定です。また、対面での授業を考えております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済学・経営学の中のキャリアと雇用	経済学・経営学の学び方について説明する。
第2回	モデル分析	経済学の思考方法を学ぶ
第3回	情報の経済学	情報の非対称性とシグナリング理論を解説。
第4回	情報の経済学（事例紹介）	就職・転職などの調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第5回	内部労働市場論	取引費用の発生と内部労働市場論を解説。
第6回	内部労働市場（事例紹介）	取引費用の発生と内部労働市場論の調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第7回	人的資本	人的資本理論、企業特殊的熟練を解説。
第8回	人的資本（事例紹介）	人的資本理論、企業特殊的熟練に関する調査研究を紹介する。
第9回	組織内競争とインセンティブ設計	競争と動機付け、労働経済学の理論を紹介する。
第10回	組織内競争とインセンティブ設計（事例紹介）	キャリアツリー法、賃金設計などの調査事例を紹介しつつ、調査の結果と方法を議論する。
第11回	日本の雇用システムの歴史	日本の雇用システムの研究史について紹介する。
第12回	日本の雇用システムの現在	最新の雇用システムの調査を紹介し、議論します。
第13回	総括（1）	全体のとまとめ、講義の振り返りを行う。
第14回	総括（2）	理解度が不足しているトピックスについて補足説明をしながら研究の実践的意味についても議論します。
第15回	問いの立て方、論文の読み方、議論の仕方	研究デザインについて講義する。

第16回	研究計画の立て方	問い→テーマ設定→理論検討→調査デザインの流れを講義する。
第17回	労働・職場調査とは？	『労働・職場調査ガイドブック』を使いながら、調査の全体像をつかむ。
第18回	官庁統計、白書、調査報告書の探し方	データや文献の探し方について講義する。
第19回	職場の聞き取り調査	職場の聞き取り調査を説明する。
第20回	職場の聞き取り調査の研究事例	スキルと分業体制の研究を紹介する。
第21回	観察法・会話分析・エスノグラフィーの説明	観察法・会話分析・エスノグラフィーの解説をする。
第22回	観察法・会話分析・エスノグラフィーの研究紹介	観察法・会話分析・エスノグラフィーの研究を紹介する。
第23回	人事マイクロデータの統計分析	人事マイクロデータを使った研究を紹介し、
第24回	人事マイクロデータの統計分析の実習	実際の人事マイクロデータを使って統計分析を行います。
第25回	オーラルヒストリーの説明	語りを分析する、オーラルヒストリーを解説する。
第26回	オーラルヒストリーの研究紹介	オーラルヒストリーの研究を紹介する。
第27回	総括（1）	全体のとまとめ、講義の振り返りを行う。
第28回	総括（2）	様々な調査方法を踏まえて、各人の研究計画を議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習として、関連論文1本を読んでもらいます。学部レベル教科書の予習は理論の解説の事前準備になりますし、関連論文の予習は受講生とのディスカッションの前提となります。調査方法の解説と研究事例紹介は、皆さんが修士論文を書く時に役立つでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各4～5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使わずに、レジュメを配布しながら解説します。ただし、講義前に参考文献を読んでもらいます。また、調査方法については、以下の本（一部）を使って解説します。調査方法習得に役立つと思います。
梅崎修・池田心豪・藤本真『労働職場調査ガイドブック－多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社）

【参考書】

参考文献

小池和男（2005）『仕事の経済学』（東洋経済新報社）
ラジアー(2000)『人事と組織の経済学』(樋口・清家訳：日本経済新聞社)(Lazear, E. “ Personnel Economics for Managers” John Wiley & Sons Inc)

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）・・・議論への参加を評価します。
レポート課題（50％）・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

理論の紹介に関しては、基礎的文献や教科書を紹介して理解を深めるようにします。事例紹介では、修士論文のための調査法を意識して解説・議論します。統計分析、インタビュー調査の習得を意識します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>労働経済学、人的資源管理、教育経済学
<主要研究業績>
単著『日本のキャリア形成と労使関係－調査の労働経済学』（慶應義塾大学出版会,2021）
共編著『問いから考える人材マネジメントQ & A』（中央経済社,2024）
共編著『日本の人事労務研究』（中央経済社,2023）
共著『日本の雇用システムをつくる 1945－1995：オーラルヒストリーによる接近』（東京大学出版会,2023）
共著『『仕事映画』に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣,2020）
共編著『大学生の内定獲得－就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐる』（法政大学出版局,2019）
共編著『学生と企業のマッチング－データによる探索』法政大学出版局,2019）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course will overview major topics in personnel and organization economics.
(Learning Objectives)

This course aims to help students understand key findings in the personnel and organization economics and apply its theoretical framework.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend about 4-5 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN500M1 - 1405 (経営学 / Management 500)

職業キャリア政策論

中村 天江

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の職業キャリアの現状について概観し、キャリア形成に関わる政策がどのように決定され、企業の人材マネジメントや労働市場にどのような変化が起きているのかについて考えます。
講義だけでなく、文献輪読とディスカッションを組み合わせ、建設的批判を含む多面的な理解を養います。また、課題レポートを授業の中で発表いただき、質疑応答や講評を行います。

【到達目標】

- (1) 職業キャリアに関わる国の政策や企業の施策の現状と課題を理解する。
- (2) キャリア政策に関して複眼的な視点で考察することができる。
- (3) 修士論文の作成に向けて、的確な課題設定・仮説提示や、説得的な論旨の展開ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は14週（2限続きで合計28回）で実施します。基本的に講義形式と文献輪読、ディスカッションを組み合わせ授業を行います。
○文献輪読については、最初の授業で指定文献の担当範囲を決め、担当者に報告いただき、全員でディスカッションを行います。（文献は濱口桂一郎（2018）『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構）
○課題レポートでは、キャリア政策の中からトピックの一つを選び、その政策の現状を整理した上で、今後どのような見直しや新たな検討が必要か論じていただきます。レポートについても授業中に発表いただき、ディスカッションを行います。
授業は原則オンラインで実施し、最終日（27回目と28回目）のみ対面で開催する予定です。18回目の授業ではテーマに精通されたゲスト講師をお招きする予定です。
受講人数等によって指定文献の輪読回数の調整や、それにともなう授業計画の一部変更を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の進め方、②受講者それぞれの問題意識の共有、③文献輪読の分担決定
第2回	日本の労働市場	日本の労働市場や雇用システム、キャリア形成の特徴
第3回	政策決定の仕組み	労働法政策の決定プロセスや三者構成原則
第4回	労使関係	政策や企業の人事制度の基盤となる労使関係や労使コミュニケーション
第5回	賃上げ政策(1)	賃金の概況、最低賃金の引き上げ、その他の賃上げ政策
第6回	賃上げ政策(2)	賃上げ政策に関する文献輪読・ディスカッション
第7回	格差の是正(1)	雇用形態による賃金やキャリア形成の格差とその是正
第8回	格差の是正(2)	同一労働同一賃金（均等・均衡待遇）政策に関する文献輪読・ディスカッション
第9回	労働時間規制(1)	働き方改革における労働時間規制とその後の労働基準法の見直し議論
第10回	労働時間規制(2)	労働時間政策に関する文献輪読・ディスカッション
第11回	リスクリング(1)	公的な職業教育訓練の仕組みや企業内の教育訓練の強化
第12回	リスクリング(2)	能力開発政策に関する文献輪読・ディスカッション
第13回	女性活躍(1)	女性活躍推進法 2015年の制定と2025年の延長
第14回	女性活躍(2)	男女雇用機会均等に関する文献輪読・ディスカッション
第15回	男性のケア参加(1)	男性の育児・介護への参加を促す政策
第16回	男性のケア参加(2)	ワーク・ライフ・バランスに関する文献輪読・ディスカッション
第17回	高齢者の就労(1)	高齢者雇用に関する文献輪読・ディスカッション

第18回	高齢者の就労(2)	中高年キャリアの法政策に詳しい元客立連合総研主任研究員によるゲスト講義
第19回	労働移動(1)	雇用仲介事業とプラットフォームに関する法規制の変遷
第20回	労働移動(2)	労働市場の需給調整機能に関する文献輪読・ディスカッション
第21回	解雇(1)	日本の解雇規制の特徴とその見直しの議論
第22回	解雇(2)	労働契約と解雇に関する文献輪読・ディスカッション
第23回	派遣・フリーランス(1)	直接雇用ではない働き方である派遣・請負・フリーランスの実態と政策
第24回	派遣・フリーランス(2)	派遣政策に関する文献輪読・ディスカッション
第25回	レポート発表(1)	課題レポートの報告・質疑応答・講評 ※レポート発表の回は受講者数に応じて調整する「。受講生が少なくレポート発表を1日で実施できる場合は、「外国人雇用政策」に関する講義を追加予定
第26回	レポート発表(2)	課題レポートの報告・質疑応答・講評（属性別など）
第27回	レポート発表(3)	課題レポートの報告・質疑応答・講評（テーマ別など）
第28回	総括	これまでの授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献は受講者全員が事前に読んで授業に参加してください。また、指定文献の担当箇所と課題レポートについては、レジュメの作成が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。また、指定文献を輪読します（分担してレジュメの作成、報告をいただきます）。
<指定文献>
濱口桂一郎（2018）『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構
<https://www.jil.go.jp/publication/ippan/jp-labour-law.html>

【参考書】

授業のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、輪読レジュメ・報告30％、課題レポート・報告30％を原則とします。
平常点（ディスカッションへの貢献等）、輪読のレジュメの作成・報告（レジュメの内容把握の的確さ、報告のわかりやすさ、質問への対応等）、課題レポートの執筆・報告（現状理解の的確さ、論点・提案の独創性やインパクト、報告のわかりやすさ、質問への対応等）で評価します。レポート未提出（提出期限を過ぎてからの提出を含む）の場合、評価点はゼロとなりますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

各回の講義で取り上げるテーマと文献輪読の内容が重なるように、指定文献を変更し、授業の全体の流れを見直しました。文献輪読を通じて過去の経緯を理解し、講義の概説で現状を把握し、今後について授業で議論するという構成にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。輪読する文献（現物をお持ちいただかなくても、内容を閲覧できるようにしていただければ問題ありません）。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻・早退の場合は事前に教員ご連絡ください。報告担当の回は原則として必ず出席してください（どうしても出席できない場合はお早めにご相談ください）。
受講人数などによって授業運営が変更になる場合があります。学習支援システムで詳細をご案内しますので、ご登録をお願いいたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>
人的資源管理論、労働政策
<研究テーマ>
労使関係、労働市場、雇用システム、就業構造
<主要研究業績>

「労働組合の組織率はなぜ政府統計では低下し、個人調査では上昇しているのか？」『フィナンシャル・レビュー』No.161（共著）、『日本労働年鑑2025年版』（共著、法政大学大原社会問題研究所、2025）、『ジョブ型vsメンバーシップ型 日本の雇用を展望する』（共著、中央経済社、2022年）、『採用のストラテジー』（単著、慶應義塾大学出版会、2020年）

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course provides an overview of the current situation of occupational careers and examines how career-related policies are formulated and changes in the labour market. This course combines lectures, assigned readings, and discussions to foster a multifaceted understanding, including constructive critical perspectives. Students will also present their written assignments in class, followed by questions, discussion, and feedback.
(Learning Objectives)

- (1) Understand the current conditions and challenges of national policies and corporate practices related to occupational careers.
- (2) Examine career policy issues from multiple analytical perspectives.
- (3) Develop appropriate research questions, formulate hypotheses, and construct persuasive arguments in preparation for writing a master's thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom)

All students are required to read the literature before class, to submit the report, and to give a presentation in the class. The standard time for preparation and review for this class is two hours each week.

(Grading Criteria/Policy)

Evaluation is based on the following components:

Class participation (40%): Contribution to discussions and overall engagement

Reading assignments and presentation (30%): Accuracy of understanding, clarity of presentation, and ability to respond to questions

Written assignment and presentation (30%): Accuracy of understanding, originality and impact of arguments or proposals, clarity of presentation, and ability to respond to questions

*Failure to submit the assignments, including late submissions past the deadline, will result in a score of zero for that component.

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

上西 充子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

古田 克利

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

児美川 孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

齋藤 嘉孝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	研究テーマを焦点化し、絞り込む指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集するための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を読み込むための指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究の検討を通して、自らの研究課題をより明らかにするための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、研究方法を検討するための指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を決定するための指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について企画・計画するための指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施について運営・実施するための指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてフィールドの状態を確認するための指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間報告に向けた準備を、作成された具体的資料（原稿）をもとに指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

授業参加50%、課題提出物50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

坂爪 洋美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

久井 英輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。

第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスチョンも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50%）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50%）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

佐藤 厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。

第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスチョンも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50%）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50%）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

佐藤 恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習Ⅰ		
仲田 康一		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。 学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。 このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。		
【到達目標】 修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。 このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】 S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】 演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。 時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。 修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。 授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ オリエンテーション	内容 修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。 演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。 授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。		
【テキスト（教科書）】 必要に応じて、担当の教員が指定する		
【参考書】 必要に応じて、担当の教員が指定する。		
【成績評価の方法と基準】 主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。 修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。 修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。 このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。		
【学生の意見等からの気づき】 院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。		
【学生が準備すべき機器他】 必要に応じて、担当の教員が指定する。		
【Outline (in English)】 (Course Outline) This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper. (Learning Objective) In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research. (Learning Activities Outside of Classroom) Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class. (Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria: The robustness of the research framework based on previous research (50%) The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).		

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

武石 恵美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習Ⅰ		
田澤 実		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。		
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。		
このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。		
【到達目標】		
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。		
このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。		
時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。		
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。		
授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。		
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。		
授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。		
【テキスト（教科書）】		
必要に応じて、担当の教員が指定する。		
【参考書】		
必要に応じて、担当の教員が指定する。		
【成績評価の方法と基準】		
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。		
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。		
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。		
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。		
【学生の意見等からの気づき】		
院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。		
【学生が準備すべき機器他】		
必要に応じて、担当の教員が指定する。		
【Outline (in English)】		
(Course Outline)		
This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.		
(Learning Objective)		
In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.		
(Learning Activities Outside of Classroom)		
Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.		
(Grading Criteria/Policy)		
Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:		
The robustness of the research framework based on previous research (50%)		
The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).		

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

田中 研之輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

筒井 美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

松浦 民恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%)

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習Ⅰ		
廣川 進		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。		
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。		
このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。		
【到達目標】		
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。		
このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。		
時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。		
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。		
授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ

安田 節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によっても異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスションも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表会に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50％）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objective)

In this course, students will acquire the skills necessary for writing a thesis, including reviewing prior studies, constructing a framework and hypotheses of master's thesis, and planning the research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The robustness of the research framework based on previous research (50%)

The clarity of problem awareness based on recognition of the current situation (50%).

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

上西 充子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅱ

古田 克利

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

児美川 孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

齋藤 嘉孝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習IIでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせる実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、調査方法の妥当性の検討を行う。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認を行う。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスションの検討を行う。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認を行う。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果の取りまとめ方、とりわけ妥当性を総括的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	論文の執筆に向けて、詳細に調査結果の取りまとめ方を批判的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討を行う。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイスをを行う。
第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認を行う。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界について検討する。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字のチェックを行う。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【学生の意見等からの気づき】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習IIでは、実証分析の手堅さと妥当性（40%）、論理的な論文の展開（30%）、テーマの重要性・斬新性（30%）を評価基準として重視する。

【学生が準備すべき機器他】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【その他の重要事項】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers.

Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

坂爪 洋美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

久井 英輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習IIでは、調査結果の分析や解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習IIでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習I、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。先行研究の確認。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスチョンの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。仮説の確認。

第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。分析方法の妥当性の検討。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。
第10回	論文執筆の助言、指導(2)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。
第11回	論文執筆の助言、指導(3)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習IIでは、実証分析の手堅さと妥当性（40%）、論理的な論文の展開（30%）、テーマの重要性・斬新性（30%）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法などを獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

オンライン授業を基本とする。Zoomによるリアルタイム方式の授業とし、Zoomへのアクセス方法については、授業開始時刻までに、受講者にメールにて連絡する。

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下「授業計画」欄に基本的な内容を記す。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容・論文内容（50%）、平常点（50%）。

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

(Learning Objectives)

By the end of the course, you should be able to acquire skills to write your academically valuable, high-level master's thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Basic actions for completing master theses are required outside of classroom hours.

Your required study time is at least two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Thesis and reports : 50%, in class contribution: 50%

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

仲田 康一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習 II		
武石 恵美子		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。		
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。		
このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。		
【到達目標】		
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。		
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。		
時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。		
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。		
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田澤 実

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

田中 研之輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

筒井 美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習IIでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が、研究の進捗を踏まえて開講日時と内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。勤務のある院生の多忙を勘案して基本的にはzoomとしているが、必に応じて適宜対面とする。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習 I、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。先行研究の確認。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエストの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。仮説の確認。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。仮説の確認。
第8回	分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第10回	論文執筆の助言、指導(2)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第11回	論文執筆の助言、指導(3)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第13回	論文の最終チェック(1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第14回	論文の最終チェック(2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習IIでは、実証分析の手堅さと妥当性（40%）、論理的な論文の展開（30%）、テーマの重要性・斬新性（30%）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習 II		
松浦 民恵		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。		
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。		
【到達目標】		
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。		
このうち演習IIでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。		
時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせで実施している。		
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。		
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。		
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第10回	論文執筆の助言、指導(2)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第11回	論文執筆の助言、指導(3)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第12回	論文執筆の助言、指導(4)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第13回	論文の最終チェック(1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第14回	論文の最終チェック(2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習IIでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅱ

廣川 進

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習 II

安田 節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

このうち演習Ⅱでは、調査結果の分析と解釈、文章の論理構成を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。個別指導の際に適宜フィードバックを行う。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	現状の問題意識 調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	先行研究の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	先行研究の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	仮説の確認 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	仮説の確認。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	分析方法の妥当性の検討 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	分析方法の妥当性の検討。 調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	解釈の妥当性の検討 論文執筆の助言、指導(1)	解釈の妥当性の検討。 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイス。

第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

授業時間外の学習時間は1回につき4時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40％）、論理的な論文の展開（30％）、テーマの重要性・斬新性（30％）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導体制の推進、発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class is for the students of the second year of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write an academically meaningful paper.

(Learning Objectives)

In this course, students will learn how to analyze and interpret data obtained through research, as well as how to develop and organize logical arguments.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students are expected to have study time outside of classroom more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following evaluation criteria:

The firmness and relevance of the empirical analysis (40%)

The logical structure of the thesis (30%)

The importance and novelty of the topic (30%)

OTR600M1（その他 / Others 600）

キャリアデザイン学演習Ⅰ（代表シラバス）

キャリアデザイン学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態(zoomの活用など)や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(2)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマをさらに具体的に設定するための指導を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための具体的な指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、先行研究の限界についても視野に入れつつ、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。リサーチクエスチョンも考慮しながら調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。研究の独自性も観点に入れつつ調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査の実施についてさらに具体的に適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査の実施についてより精緻な指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さや妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1（その他 / Others 600）		
キャリアデザイン学演習Ⅱ（代表シラバス）		
キャリアデザイン学専攻教員		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
修士課程2年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。		
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。		
【到達目標】		
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。		
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoomの活用など）や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせ実施している。		
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。		
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。		
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う（特に現状の問題意識）。
第3回	調査の実施状況の確認(2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う（特に調査方法の妥当性の検討）。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1) 先行研究の確認	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う（特に先行研究の確認）。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2) リサーチクエスションの検討	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う（特にリサーチクエスションの検討）。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3) 仮説の確認	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う（特に仮説の確認）。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う（特に分析方法の妥当性の検討）。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5) 解釈の妥当性の検討	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う（特に解釈の妥当性の検討）。
第9回	論文執筆の助言、指導(1) 先行研究への言及の方法	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく（特に先行研究への言及の方法）。

第10回	論文執筆の助言、指導(2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく（特に論文構成のアドバイス）。
第11回	論文執筆の助言、指導(3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく（特に用語の定義の確認）。
第12回	論文執筆の助言、指導(4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく（特に論文の限界についての検討）。
第13回	論文の最終チェック(1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う（特に誤字脱字チェック）。
第14回	論文の最終チェック(2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う（特に体裁全体のチェック）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

修士論文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

